



奉仕に立ち上がる

ルビ・インスティテュート



Book 2

奉仕に立ち上がる

Arising to Serve

ルビ・インスティテュート

Book2

Version 2.1.6.PE

2022年4月4日 更新

教材のシリーズ

ルヒ・インスティテュートは、地域の共同体に奉仕する若者や成人の能力を系統的に高めるため、継続的な幹^{みき}コースとして下記の一連の教材を制作しました。ルヒ・インスティテュートはまた、幹コースのひとつである子どもクラスの担当者(先生)のトレーニングのための Book3、ジュニアユース・グループの担当者(アニメーター)の育成のための Book5 から、枝としてでる一連のコースを開発しています。それらもまた、下のリストに示します。この分野での経験が蓄積されていくにつれ、下記のリストにある一連のコースはさらに変化する可能性があり、いま開発中のカリキュラムがより多くの人に提供できる形になれば、随時新しい教材がリストに追加される予定です。

- Book 1 精神の生命を考える
- Book 2 奉仕に立ち上がろう
- Book 3 子どもクラスを担当するにあたって 1年生向け
2年生向け(枝コース)、
3年生向け(枝コース)、
4年生向け(枝コース)
- Book 4 一對の神の顕示者
- Book 5 ジュニア・ユースの力を放出させる
最初の推進力: Book5 最初の枝コース
広がる輪: Book5 2番目の枝コース
- Book 6 教えを広める
- Book 7 奉仕の道を共に歩もう
- Book 8 バハオラの聖約
- Book 9 歴史的展望を得る
- Book 10 活気に満ちた共同体建設
- Book 11 物質的手段
- Book 12 家族と共同体
- Book 13 社会的活動との関わり
- Book 14 (間もなく発表)

Copyright © 2011, 2021 by the Ruhi Foundation, Colombia
All rights reserved. Edition 2.1.6.PE published in April 2022
Printed in Japan

Originally published in Spanish as *Levantémonos a servir*
Copyright © 1987, 1996, 2020 by the Ruhi Foundation, Colombia
ISBN 978-958-52941-0-3

Permission for a limited printing of this book in Japanese has been granted by the Ruhi Institute.

Ruhi Institute
Cali, Colombia
Email: instituto@ruhi.org
Website: www.ruhi.org

日本バハイ人材開発インスティテュート
〒830-0047
福岡県久留米市津福本町 27
Email: bid_office@bahaijp.org
<https://bid-japan.jimdofree.com>

目次

チューターのためのいくつかの考察	5
ティーチングの喜び	9
高揚する会話	29
ディープニング・テーマ	51

チューターのためのいくつかの考察

ルビ・インスティテュートが提供する幹コースの2番目であるこのブックは、有意義で高揚する会話に役立つ能力に関するものです。このブックが焦点を当てている特定の奉仕活動については第3章で説明されます。強烈な勢力が共同体の絆をズタズタに引き裂いている世界で、友人や隣人たちの家を訪問し、社会生活の主要な課題について探求するという実践は、それが文化の顕著な特徴となるならば、増え続ける孤立によって引き起こされるいくつかの病を癒すことができます。このようにして創られた交わりの絆は活気に満ちた、調和のとれた共同体づくりのプロセス強化に役立つと、第3章は示唆しています。

近隣や村における家庭訪問という持続するプログラムは、必要な行政機関や下部組織によって支援された、中核となる献身的な友人を含め、ある程度の組織化を必要とします。このブックを通してグループを導く時、チューターは、参加者がそのような進行中の活動に参加するよう準備されているということを心に留めておくべきです。学習の一環として、彼らのために手配される訪問は、生涯にわたる奉仕の重要な側面である、この活動に継続して参加するという決意につながらなければなりません。

精神的、社会的に重要なテーマを探求するという明確な目的で家庭を訪問する習慣は、明らかに共同体の文化を豊かにします。この意味では職場や家庭で、学校やマーケットで行われる数々のうちとけた対話も同じように重要です。ですから、日常の会話に精神的な原則を、折々に持ち出すことは注目に値する能力です。その能力の発達は第2章の焦点であり、こうして第3章で扱われる学習の基礎を敷きます。

友達や隣人との会話が高揚するものとなるには、彼らとの交流に喜びがもたらされなければなりません。これは第1章「ティーチングの喜び」で扱っている課題です。ルビ・インスティテュートが薦める奉仕の活動はすべて、本質的に、私たちがバハオラの啓示の大洋で発見する、神の英知の真珠を他の人々と共有することを意味します。第1章の学習はこの追求に内在する喜びへの意識を高めることを目指します。参加者はいくつかのセクションで、神の言葉について、またそれを他の人々と分かち合うことがどれほど祝福されることであるか考えるよう求められます。第1章は、この行動から奉仕の道を歩むときに、私たちの足取りを速める喜びが生まれると述べています。しかし、この深遠な精神的真理を全面的に確信していても、もし私たちが奉仕を特徴つける資質や態度を考えなければ、ティーチングの喜びは失われるでしょう。これらはこのシリーズの多くのブックで話し合われることですが、ここではそのほんの少しを検証します。それは、まずセクション7で扱う離脱から始まります。バハイの書物から選んだ引用文は、この資質についての熟考の基礎となります。その資質は、外的要素によって奉仕の喜びが減じられないようにするために不可欠のもので、重要なのは、離脱はよそよそしさ、あるいは配慮の欠如を意味するという誤解が参加者の間に

生じないようにすることです。私たちは常に、より良い結果に到達するよう励むにつれ、自分たちの努力を強化し、奉仕の効果を高めるよう努めなければなりません。これには、セクション 8 で検討する課題である努力の性質についてのしっかりした理解が必要です。奉仕の道の基礎となる二つの態度、前向きの姿勢と感謝についてはこの章の最後のセクションで簡単に話し合います。

このブックの第 2 章「高揚する会話」は、機に応じて精神的原則について述べることにより、日常的な会話のレベルをあげるという能力に焦点を当てています。これは様々なテーマに関しての幾つかの短い説明文で構成されています。それらは厳密な引用文ではありませんが、アブドル・バハの話されたことに基づいており、彼が使われた表現や言葉遣いがふんだんに含まれています。万人の関心を引く中で、すべての背景の人々の願望や懸念に語りかけています。参加者には、これらの文章を学習することによって、アブドル・バハが精神的原則を説明された方法からインスピレーションを得、バハオラの啓示の大海に潜む真珠を発見し、アブドル・バハのお父上の教えの意味や含蓄を理解し、それらを他の人々と寛大に分ち合うよう努めるとき、アブドル・バハに向かう習慣を身につけることが期待されます。

この章が目指していることを達成するために、各文章を数回見直し、思考の流れを特定し、それらを自然に表現できるようになるほど、それらの考えを自分のものにするまで練習をする機会が参加者に与えられる必要があります。最初は、単純にその文章を暗記し、だいたいこの章に示されている通りにそれを繰り返す人もいるでしょう。信教についての知識が深まり、経験が豊かになるにつれて、彼らははるかに幅広い内容と、豊かな語彙に到達し、それは他の人々との対話に反映されるでしょう。チューターは、この段階で、ここでは二つのことが求められているということを認識する必要があります。つまり、教えについてある程度気軽に説明し、かつ、アブドル・バハの考えに沿うようにするということです。

グループのメンバーが各説明文の内容を発表することを学んだら、次にもう一つの活動に進みます。それは自分たちが学んだ考えを家族や友人、同僚たちの関心事と関連づけて考えることです。この目的を達成するために、参加者は、会話で持ち上がる話題や質問のいくつかについて考え、どれが、自分たちが学んだ考えを紹介できる可能性が高いか判断するよう促されます。いくつかの文章のために、アブドル・バハが述べられた精神的原則が人々の関心事にどのように光を当てているか説明する一つか二つの例が挙げられています。この練習は、もしチューターが、この学習の進行中に、これら説明の一つと、それに含まれる考えを話し合うために数人を選ぶよう各メンバーを助けることができれば、より成果が上がるでしょう。このようにして、参加者が関わった対話の力学を互いに説明し合うため、集まりの時に時間を取ることができます。

この章の説明文のすべてには、バハオラの書物からの幾つかの文節が暗記のために含まれて

います。ルビ・インスティテュートが暗記に重点を置いていることは、このシリーズのブック1で既に明らかですが、ブック2でさらに顕著になります。確かに、参加者は今では、聖典からの文節を繰り返し思い起こすことによって受け取る精神的栄養を意識しています。ですから、このブックでは、神の言葉が人の心に及ぼす影響について更に熟考し、第2章と同様、第3章で自分たちの発言に、聖典に基づく原則や見解を表すこと、そして適切な時には、直接、それらの文節を引用することを学びます。教えを正確に説明し、それらを純粋な形で他の人々に差し出すことは、私たち皆が奉仕の道を歩む中で発展させようとしている能力の一つです。そのためには、まず初めに、アブドル・バハの説明を学習し、それらを彼がされたように表現することを学ぶのが最適です。これが第2章の構造の根底にあるものです。

上述のように、第3章「ディープニング・テーマ」は、このブックで扱っている奉仕という行動に向けられます。つまりそれは、共同体生活に必須の話し合いに携わるという明確な目的のために友人や隣人たちを訪問することです。この章で対話の三つの型が構想され、一つ一つに特定の内容が提案されます。一つ目のものは、系統的な訪問計画を通して、村や近隣の住民と共に探求する一連のテーマを中心とするものです。概説されている内容は、様々な方法で関心のある聞き手と共有することができますが、その家の人たちと信教についての知識を深めるための機会を提供するという、本来の意図は依然として最も重要なものです。従って、この章のより多くの部分はこの型の会話に当てられます。

しかし、家庭訪問の実践は近年、新しい次元が加わりました。それは、特にますます小さな地理的単位として、都会近郊や村のレベルで、チューターや、ジュニアユース・グループのアニメーター、子どもクラス教師として活動することができる人の数が増加しているためです。特に、その習慣は信教の知識を広めるという目的のためだけでなく、ジュニアユースの精神性強化や子どもたちの精神的教育のためのプログラムの展開を成功させるために不可欠であるということが分かりました。この中で明らかになったことは、定期的な訪問は、二つのプログラムに参加している若者の保護者に、プログラムを形づくる概念やアプローチについて話し合うためにアニメーターと教師によって実施される必要があるという点です。そのような話し合いは会話の二つめの型を構成し、これはセクション14と15で検証されます。これらのセクションが扱っている内容は大量ではなく、参加者は将来のコースでこの二つの教育プログラムについて一層精通するようになるでしょう。しかし、彼らにとって、この種の対話の重要性を認識し、子どもたちの教師やジュニアユース・グループのアニメーターたちが保護者を訪問するのに寄り添うことは、この初期段階で極めて有益でしょう。

この章で描かれている対話の三つ目のものは極めて特別な目的を果たします。非常に多くの若者が、世の改善に尽くしたいという自分たちの熱烈な願望の表現を可能にする道を探しています。彼らは、社会変革のための能力の巨大な貯蔵庫を象徴しており、その能力は引き出されるの

を待っている、否、むしろ、切望しているのです。活気、および並外れた可能性に満ちた若者世代に特有の機会や責任について振り返る、仲間同士の会話は、しばしば、奉仕についての話し合いや、世界中の村や隣近所で進行中の活動への関心の高まりにつながる可能性があります。そして順番に、多くの人が、子どもクラスの教師やジュニアユース・グループのアニメーターとして、成長中の世代に精神的教育を提供する能力を得る手段としてインスティテュート・コースへの参加の招待を歓迎します。セクション9と10は、この型の会話で探求可能ないくつかの概念を詳しく説明しています。

各自が有意義な会話を開始し、それを続ける能力を強化するため、この章は、当然、広範なテーマとそれに対応する内容を提案するだけではありません。考えを明確に表現する能力とは別に、参加者は、必要な姿勢と精神的資質を発達させる必要があります。これらはこの章で展開される記述の多くの根底にあるものですが、問題となっている能力についての重要性はセクション4で明確にされています。そのセクションで、参加者は訪問の準備をする中で、どのような感情や思いが私たちの心を満たさなければならないかについて考えます。そしてセクション5では、謙虚さについて熟考します。チューターは、参加者がこれらのセクションに十分な注意を払うようにしたいでしょう。なぜなら、いくら知識を習得し、またどんなに上手に考えを表現することができても、私たちの会話の効果は、私たちが会話に持ち込む資質と態度に左右されるからです。

このシリーズのブックで説明している奉仕の活動は、共同体の成長と発展の中心ではありませんが、何よりも、学習と行動を通して個人の能力を高めようとするそのプロセスの要素であるということに注目すべきです。すべてのチューターが認識すべきことは、それらの活動は互いに積み上げられ、コースを進むにつれ複雑になっていくという点です。奉仕の活動それぞれを効果的に実践することを学ぶのは、それに続く奉仕に必要な能力にとって極めて重要です。このブックで提案されているように、数回の訪問の中で進行中の会話を維持することはブック1で薦められた活動、つまり自分で、あるいは他の数人と協働で定期的な祈りの集いを主催するというような活動よりも忍耐を要するものだという事は明らかです。そして、先々、より複雑な奉仕の活動を行うために、参加者はここで扱われている能力を向上させることがいかに重要か、容易にわかることでしょう。

ブック1の序言で述べられているように、世界中の、このインスティテュート・コースの参加者は様々な背景をもっているうえに、バハイの教えについての熟知度も、最初はさまざまです。2番目のブック2を始める時までには、彼らは皆、確かに、このコースによって開かれた奉仕の道に乗り出しています。しかし、いくつかの違いは残ります。例えば、子どもやジュニアユースのための教育プログラムを経験していないユースの場合、このブックが提示している説明文やテーマの多くは彼らにとって新しいものであり、この学習は、信教についての彼らの知識を深める手段としての役を果たすでしょう。このコースの主な目的は、参加者が有意義で、高揚する会話に従事できるようになることです。チューターは、グループの各メンバーの中に理解を育てるために、この目的達成に

において、必要な柔軟性や創造性を発揮するよう努力する必要があります。それに、この三つの章は共同体づくりのプロセスを助けるためのものですが、このブックを採用している何千もの地域における共同体づくりのプロセスは同じ段階にはありません。そして、学んだことを行動に移すことは地域ごとに多少異なった形をとります。このことはまた、どれだけの注意や行き届いた心配りを持って、このコースを共に学習している一人一人のニーズに対応しなければならないかということ、チューターに示しています。



ティーチングの喜び

目的

ティーチングの喜びは、神の言葉を
他の人々と分かち合うという行為
そのものにあるということを認識する

セクション1

「奉仕に立ち上がる」は、ルヒ・インスティテュートが提供するこの一連のコースの2番目のものであり、学習と行動を結合させることを目指すものです。その目的は、あなた方が、自身の精神的・知的成長の追求と、社会の変革に貢献するという二重の目的を果たすよう努めるときに入っていく奉仕の道でさらに進化するのを助けることです。最初のコースへの参加で、みなさんはすでに、私たちが言及している道は一連の奉仕の活動によって定義されるということに気づいたはずですが。その活動は、バハオラの書に描かれている新しい世界秩序の目標に目を据えて実践されます。このように、私たちが「奉仕の道を歩む」と呼んでいるものの多くは、神の教えを私たちの生活や人類の生き方に適用させようとする努力から成り立っています。バハオラご自身がこれらの言葉で神の啓示について述べておられます。

おお、わがしもべらよ。神の命令によるこの聖なるわが啓示は大海にたとえられよう。その深海には、無比の輝きを持つ高価な真珠が無数かくさされている。探究者たるものの義務は、奮起してこの大海の岸を目指すことである。探求者は、神の隠された不変の書簡に前もって定められた利益を、その探究の熱意と努力に応じて得ることができよう。¹

この最初の章で、私たちの思考は、バハオラの啓示の大海に隠れている知恵の真珠を発見し、それらを他の人と分かち合うときに私たちの心を満たす喜びに向けられます。すでに、ブック1の学習で、皆さんは神の書物に見られる聖なる導きの真珠がいかにか、絶妙に美しいかを知っています。さらに、いくつかの引用文について熟考しましょう。

神の言葉は灯火であり、つぎの聖句こそがこの灯火から放射される光である。汝らはみな一つの樹の果実であり、一つの枝の葉である。²

すべてのもののうち、わが目に最愛なるものは正義である。汝もし、われを求むるならば、正義にそむくな。またわれ汝を信頼し得るよう、それを等閑にするな。³

汝らの生きる時代の要求を憂慮し、そこに関心を寄せよ。そして、その時代に必要とされるもの、また、急務とされることに汝らの審議を集中せよ。⁴

人間はみな、常に進歩する文明を前進させるために創造された。⁵

この世は^{すた}廃れ、永遠なるものは神の愛である。⁶

汝はわがランプであり、わが光は汝のうちにある。汝それより汝の輝きを得よ。そしてわれ以外に何ものをも^{もと}求むるな。われ汝を豊かに創り、汝にわが恵みを惜しみなく^{そそ}注ぎたれば。⁷

これらの短い句を、少しずつ暗記してみましょう。

セクション2

この章の主たるテーマについての話し合いを始めるため、前のセクションにある最初の引用文を再度読み、以下の練習問題をしましょう。

1. 下の文を完成させましょう。
 - a. 私たちの義務は、_____この大海の____を_____ことである。
 - b. 私たちがバハオラの啓示の大海の岸に到達するよう努めるとき、私たちは神の隠されたる不変の書簡に前もって定められた_____を得ることができよう。
 - c. 私たちは、_____に応じて、バハオラの啓示の大海から利益を得るでしょう。
2. 「奮起する」とはどのような意味ですか。 _____
3. 「目指す」とはどのような意味ですか。 _____
4. すべての探求者は、何を目指すべきですか。 _____
5. 「応じて」得るとはどのような意味ですか。 _____

6. バハオラは、私たちは自分の努力の度合いに応じて彼の啓示の大海の利益を受け取るであろうと述べておられます。

a. これらの利益を受け取るためになす努力の例をいくつかあげましょう。_____

b. 私たちが受け取る利益の例をいくつかあげましょう。_____

セクション3

バハオラの啓示は大海のようであり、その底深くには非常に貴重な真珠が隠されているということを知り、私たちは皆、その利益に^{あずか}与り、その岸辺に到達するよう他の人々を助けるために最善を尽くします。しかし、その大海の岸辺は私たちからどのくらい離れているのでしょうか。バハオラは宣言しておられます。

おお、わがしもべらよ。唯一真実なる神こそわが証人なり。波立つこの最も偉大な底知れぬ大海は、汝らに非常に近いところにある。それは驚くほど近いところにある。見よ、それは汝らの身体をめぐる動脈よりもなお近い。欲するならば、汝らはまばたく間にこの大海に到達し、その不朽^{ふきゅう}のめぐみを手にすることができる。これこそは神の授け給う恩寵であり、不朽^{たまもの}の賜物であり、最大の威力と、言葉に尽くせぬほどの栄光に満ちた恩恵である。⁸

1. 「波立つこの最も偉大な底知れぬ大海」という文節は何を指していますか。 _____

2. この大海はどれほど私たちに近いのでしょうか。 _____
3. 私たちはどれほど速くこの大海に到達することができますか。 _____
4. 以下の文章を完成させましょう。
 - a. バハオラの啓示の大海は非常に近いところにある。それは _____ にある。
 - b. バハオラの啓示の大海は、私たちの身体をめぐる動脈よりも _____。
 - c. 私たちが欲するなら、 _____ にこの大海に _____ し、彼の啓示の大海の _____
_____ ができる。
 - d. _____、私たちはまばたく間に彼の啓示の大海に到達し、そのめぐみを
手にすることができる。

セクション4

バハオラの啓示の大海の岸に到達したなら、そこにある財宝を引き出し、その聖なる導きの真珠を他の人々と惜しみなく、無条件に分ち合います。それら聖なる導きの真珠は、私たちが学び、祈り、瞑想し、神の^{たいぎょう}大業と人類への奉仕に努めるなかで絶えず発見するものです。ここで時間をとって、この義務の神聖さについて常に思い出させてくれる次の引用文を暗記してみましょう。

おお、神の道を旅するものよ。神の^{おんちやう}恩寵の大海より汝の分け前にあずかり、その深海に秘められたものを^{いっ}逸するな。その財宝を享受する人々の一員となれ。この大海の^{しずく}雫の一滴は、それが天と地にある万人に注がれるなら、それだけで彼らを神のめぐみに富ますに充分なのである。神は全能者におわし、すべてを知り、すべてに賢き御方におわす。無欲なる手もて、この大海より

生命を与える水を汲み上げ、全創造物に散水せよ。そうすることにより万物は、人間が造り上げたあらゆる限界より清められ、この栄光に輝く神聖なる場所に近づくことができよう。この場所こそは神の強大なる座である。⁹

セクション5

インスティテュート・コースを進み、必要とされる学習と行動を実践するにつれて、私たちの奉仕の能力は向上し、心を大いなる喜びで満ち、私たちの二重の目的達成の助けとなる奉仕ができるようになります。それらの奉仕は、子どもたちの精神的教育のためのクラスで教える、ジュニアコースの精神性強化のプログラムに携わる、一連の幹コースを学習する友人のグループを助けるといった活動です。この旅の行程のすべてで、私たちが他の人々、若者や年老いた人々と分かち合う神の御言葉は、常に私たちを導く原動力です。ですから、神の言葉の力や、人の心への神の言葉の影響についてたびたび熟考するのは実に適切なことです。

神の言葉は、人間の心に植えられた苗木にたとえられよう。この苗木がしっかりと根をおろし、枝が天空とそのかなたまで高くのびるよう、汝らは英知と聖別された清らかな言葉の活水かつすいをもってその成長を育成しなければならぬ。¹⁰

1. 神の言葉は何にたとえられますか。 _____
2. 神の言葉の木はどこに植えられていますか。 _____
3. この木の成長はどのように育成されなければなりませんか。 _____
4. この木はどの高さまで成長できますか。 _____
5. 神の言葉を他の人々と分かち合うことがなぜそれほどまでに重要なのか、簡単な文で説明しましょう。 _____

セクション6

私たちの日々の生活で時間を費やす様々な活動について考えてみましょう。身体を養います。新たな知識を得、知力を広げるために勉強します。社会に貢献する一員として生きることができるように技術を磨き、働きます。スポーツやレクリエーションに取り組みます。これらのような数々の活動は、すべて私たちの知的進化や物質的安寧あんねいのために重要であり、私たちの時間の多くを占めています。しかし、さらに、毎日、祈りを捧げる時間、一人で、あるいは友人と聖なる教えについて知識を深める時間、または種々のやり方で、バハオラの啓示の大海に秘められた真珠を発見するために周囲の人々を助ける時間など、精神性で満たされている特別な瞬間があります。これらの瞬間は計り知れないほど貴重なものではないでしょうか。これら天来の祝福あずかに与ること以上に大いなる喜びが他にあるでしょうか。

アブドル・バハがどのように私たちに、人類を高揚させる事柄に専念するよう勧められたかを常に思い起こすべきです。

私たちはみな、ただ一つの聖なる目的のために結ばれています。私たちに物質的な動機はありません。私たちの最も大切な願いは、神の愛を全世界にくまなく普及することです。¹¹

あなたが暗記した、セクション1にある引用文の一つを友と分かち合う機会が生じたとします。あなたの心を満たす喜びはどこからきますか。当然、あなたはその友がバハオラの言葉で高揚されるよう願っています。しかし、もしその友があなたの期待したほどの熱意を示さなかったらどうでしょう。あなたの心の喜びは、あっさりと消えてしまいますか。なぜ、そうではないのですか。

セクション7

私たちの人生で行うすべてのことの中で、神の言葉を他の人々と分かち合うために費やす時間には特別な祝福があると気づく時、私たちの奉仕から得る喜びは行為そのものにあるという最も重要な結論に達します。もちろん、私たちは自分が行う奉仕の活動が価値のある結果をもたらすよう願いますが、結果に執着しすぎると、また、賞賛や非難に過度に影響されると、ティーチングの喜びは失われるでしょう。私たちが奉仕に促すものは神への愛であり、成功したい、利益を得たい、認められたいという願望ではありません。これらすべてからの離脱は、喜びに満ちた奉仕の必要条件です。次の引用文の学習は、このテーマについて熟考する助けとなるでしょう。

おお二つの視覚を持つ者よ！

一方の目を閉じ他方の目を^{ひら}開け。一つはこの世界とそこにあるすべてに
対して閉じ、他は最愛なる者の^{きよ}聖き^び美に対して開け。¹²

おお友らよ！

消滅せねばならぬ美のために永遠の美を捨てるな。またこの滅ぶべき^{ちり}塵の
世に愛着を持つな。¹³

おお言葉の子よ！

汝の顔をわが顔に向けよ。そしてわれより他のすべてを放棄せよ。わが主
権は永続し、わが領土は滅びることなければ。たとえ汝われより他のもの
を求めんとし、さらにまた宇宙を永久に探し求めようとも、汝の探索は
徒^{とらう}労^きに帰さん。¹⁴

おお助けられた見知らぬ者よ！

汝の心の^{しよくか}燭火は、わが^と權威の手で灯されている。自我と情欲の逆風もてそ
れを消すな。汝のあらゆる^{やまい}病を癒すものは、われを記憶するところにあ

る。それを忘れるな。わが愛を汝の宝となし、汝の目や生命そのものの如くそれを慈しめ。¹⁵

離脱^{りだつ}は太陽のようである。心が、この太陽で輝かされていれば、強欲や私欲の炎は消される。視力が理解の光で照らされているものは、確かに自らをこの世とその虚栄から引き離すであろう。…この世やその下劣さがあなた方を悲嘆に暮れさせることなきように。富^{うつ}が虚ろな栄光に満たされることなく、貧困に悲しまされることなき者は幸いなり。¹⁶

1. この世から離脱するということは、修行者のように生きるという意味ですか。 _____
2. この世から離脱し、同時に物質を所有することは可能ですか。 _____
3. 事実上、自分の人生のすべての時間を仕事に捧げている人が、この世のものから離脱している人ですか。 _____
4. 自分の基本的なニーズを満たすに十分なだけ働き、その他の時間は何もしない人がこの世から離脱している人ですか。 _____
5. 奉仕の分野で物質的な不便を我慢できない人はこの世から離脱している人ですか。 _____

6. 物質的所有物以外にも私たちが執着するものがたくさんあります。次のような人は何に執着しているのでしょうか。
 - 奉仕の活動をし、誰からもそれを認められないと奉仕を止めたい。 _____

 - 誰かがあなたの提案を受け入れないとき、がっかりさせられる。 _____

 - 他の人に拒否されるのを恐れて自分の信念を隠す。 _____

7. 離脱は関心の欠如を意味するものではありません。以下のうち、自分が離脱していないことを示すのはどれですか。

- 他の人の進歩を見ることに喜びを見出す
- クラスの子どもたちの何人かがよくない行いをしたら教えるのを止める
- 自分の達成を自慢する
- 懸命に学び、進歩できたことを嬉しく思う
- 公共の福利に奉仕する能力を高めるために懸命に務める
- 仕事で卓越するために尽力する
- 清潔を実践し、家を掃除し、整頓を保つ
- 持ち物を粗末にしない
- 他の人々の福利を気遣う
- 自分の努力を褒められないと傷つく

8. 私たち各自にとって離脱はとても重要です。そこで、このセクションのすべての引用文を暗記するようお勧めします。

セクション8

人類に奉仕する喜びに満ちた人生の恩恵を受け取るには、意欲的に努力しなければなりません。しかも、その努力にはいくらかの犠牲が求められるかもしれません。私たちは日常生活で「犠牲」という言葉を使います。例えば、ある友人が明け方に旅先から戻ってくるなら、迎えに行くため早起きするかもしれません。そうした場合、睡眠時間を数時間、犠牲にしたのでしょう。親しい人が病気になれば、趣味の時間の何時間かをその人のお世話にあてます。人生には、懸命に働かなければならない時があります。そんな時、私たちは、目標達成のために楽しみを犠牲にしていると思うのかもしれません。

私たちはみな、大業に奉仕したいと心から願っています。自分の時間とエネルギー、それに、可能な限り、物質的資源の一部を惜しみなく提供したいと願っています。そうするとき覚えておくべき

は、私たちは奉仕の道においてこの世のものを断念するかもしれませんが、精神的に成長するにつれ、真の喜びを受け取るということです。これからのコースで、犠牲の性質についてさらに熟考する機会があります。あたかも、種が自らを犠牲にして木になるのと同じように、より高次なもののためには低次なものを絶つ必要があると、最初から認識することが重要です。犠牲は喜びを運びます。しかし、この喜びは一貫した、懸命な努力なしに得ることはできません。

バハオラは述べておられます。

もし、我々が彼を求めるなら労力を要し、彼との再会という美酒を飲みたければ、情熱を要する。そして、この杯^{さかずき}を味わえば、この世を捨て去るであろう。¹⁷

そして、アブドル・バハはこう勧告されています。

… 汝らは休んではなりません。安らぎを求めてはなりません。この束の間^{つか}の世の贅沢^{ぜいたく}に執着してはなりません。あらゆる執着から汝自身を解放しなさい。そして神の王国に完全に根付くよう心魂を傾けなさい。神の宝物を勝ち取りなさい。日々一層、啓発されるようにしなさい。一体性の敷居^{しきい}により近づけるようにしなさい。¹⁸

目標達成には努力が必要だということを疑う人はいないでしょう。しかし、この単純な信念には実践に関わる特定の意味があるということ覚えておくべきです。まず、覚えておくべきは、必要なエネルギー量と目の目標や任務の困難度とは釣り合っているということです。少ない労力で達成できると考えるのは間違いです。しかし、考慮すべき要素は努力の大きさだけではありません。一貫性や忍耐が必要です。集中することが求められます。いろんな仕事に手を付けて、それらを未完成のままにするのではなく、ひとつの仕事を完了させる習慣が不可欠です。中途半端な努力で、実は結ぶことはありません。子どもたちの精神的教育のための週一のクラスを想像してください。教師は毎週、一定の時間をクラスの準備に捧げ、生徒たちがレッスン内容を理解するのを助けるため、クラスの時間中ずっと、完全に集中し、生徒たちの両親を定期的に訪問し、一人一人の進歩に寄り添います。たまにしかクラスの準備をせず、疲れを理由に、早めに、また突然切り上げたり、子どもたち一人一人のことを考え、彼らの進歩をその両親と話しあうために必要な時間をとることをしたりしない教師のクラスはどうなるでしょう。また、何か他の用事がある時、たとえば、よその町から訪れている友につき合うというような時に、いつでも気軽にクラスをキャンセルしてしまう場

合、そのクラスはどうなってしまうでしょう。

これら二、三の例は、私たちがとりかかっている活動のすべてに求められる努力の量と質の双方に注意を向ける必要があることを納得させます。このことは、私たちが関わる奉仕の活動だけでなく、私たち自身の発展にも、同じく当てはまります。この教材のシリーズのブック1で、私たちが検討した精神的な習慣、—— 定期的に祈ること、毎日、書物を読むこと、教えに沿った生き方について熟考すること、祈りの集いに心を込めて参加すること —— できえ、継続的な努力にかかっているのです。以下は、努力に関連するいくつかの発言です。正しいのはどれか判断することは、努力についての理解を深める役に立つでしょう。

- __ 頭が良ければ、熱心に働かなくてもいい
- __ いつも近道を探せばいい、なぜ、遠回りをする必要があるんだ
- __ 虎穴に入らずんば、虎子を得ず
- __ 夢が大きければ願いは実現する
- __ 労力が大きければ、得るものも大きい
- __ 努力が大きいほど、褒美はより嬉しい
- __ 一度の試みで諦めるな
- __ 誰かがやってくれるのなら、自分がやるまでもない
- __ そんなに労力を要するのなら、それはするなということだ
- __ 一歩ずつ繰り返す、一貫性を持って進むことは大きな成果をもたらす
- __ やすやすと手に入るものに価値はなし
- __ 卓越性には心を込めた献身が求められる
- __ 千里の道も一歩から
- __ どうにかしのいでいるだけでは十分ではない
- __ 事が起こるのを待っているべきではない。それらを追い求めるべきだ
- __ 成功は運次第だ
- __ 私たちの持つ二重の目的は魔法で達成されるものではない
- __ 日毎に自らを反省すべきだ

私たちは奉仕の道を進み、各自の精神的、知的成長を果たし、社会変革に貢献するよう努めます。この二重の目的追求には確かに多大な努力が求められます。バハオラ曰く、

比類なき創造主は、すべての人間を同じ物質より創造し、人間の本質を他の創造物より高めた。それゆえ、人間の成功と失敗、利得と損失は自らの努力に依存する。努力すればするほど、人の進歩は大である。¹⁹

この引用文をまだ暗記していなければ、暗記してみましょう。

セクション9

奉仕から喜びを得るには、自身にいくつかの姿勢を養わなければなりません。たとえば、神が私たちに授けられた奉仕という恩恵に感謝する必要があり、彼の大業に奉仕するとき、神に何かをしてあげていると思うことなどあり得ません。私たちはまた、悲観的な見方を避け、前向きな世界観で人生に向かうことも学ばなければなりません。奉仕の道での障害は、さらなる進歩のための足がかりとなることもあります。困難のさなかにあっても、私たちは信仰の心で未来をみます。以下のアブドル・バハの言葉は、私たちの努力を特徴づけるべき希望と楽観論を指摘しています。

始めは、いかに小さな種であっても、最後には、巨大な木になるのです。種を見るのではなく、木に、そしてその花、その葉、その果実に目を向けましょう。²⁰

そして、真の『農夫』が、その慈悲の手で、主の耕作地に撒き、贈与と恩寵の雨で潤し、今や、『真理の昼の星』の熱と光の中で育てているこの小さな種の極めて重要な意味を知りなさい。²¹

一本の木が成長し、大きくなっているのを見たら、その結果を期待しなさい。それはやがて花を咲かせ、実を結ぶであろう。乾いた木や古木を見た

ら、いかなる実りも期待できない。²²

それゆえ、神の愛されし者らは、労苦をいとわず、努力の水を持って、この希望の木を世話し、栄養を与え、育てなければならない。²³

もし、神が与えたもう祝福に心を背^{そむ}けているならばどうして幸福を望むことなどできましようか。また神の慈悲に信頼をおかず、信じないとすれば、どこに平安を見出すことができるでしょう。²⁴

上の節を熟考するために、以下の文章を完成させましょう。

1. 始めは、いかに小さな種であっても、最後には、_____。
2. 小さな種を見るのではなく、_____ べきです。
3. 神がその慈悲の手で、_____, _____, _____
_____。
4. 一本の木が成長し、大きくなっているのを見たら、_____ すべきです。
5. 一本の木が成長し、大きくなっているのを見たら、それは _____ でしょう。
6. 私たちは、努力の水を持って、_____ なければなりません。
7. 神が与えたもう祝福に心を背けたなら、_____。
8. 神の慈悲に信頼をおかず、信じないなら、_____
_____。

では、しばし熟考しましょう。私たちの、謙虚な感謝の姿勢を伴う喜びと希望に満ちた精神は他者に喜びをもたらす源泉であると思いませんか。大業への奉仕に立ち上がる時、私たちは人類が一体となる日、新たな日の夜明けの吉報^{きつぽう}を伝えるということを忘れないようにしましょう。バハオラの言葉が私たちの心に響きますように。

幸福なるは行動する者らなり。幸福なるは理解する者らなり。幸福なるは眞実にすぎり、天上にあるすべてのものと地上にあるすべてのものから超脱する者なり。²⁵

参照文献

1. バハオラ、落穂集 153
2. 同上、132
3. バハオラ、隠されたる言葉、アラビア編 2
4. バハオラ、落穂集 106
5. 同上、109
6. Bahá'u'lláh, in *Women: Extracts from the Writings of Bahá'u'lláh, 'Abdu'l-Bahá, Shoghi Effendi and the Universal House of Justice*, compiled by the Research Department of the Universal House of Justice (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 1986, 1997 printing), no. 53, p. 26.
7. バハオラ、隠されたる言葉、アラビア編 11
8. バハオラ、落穂集 153
9. 同上、129
10. 同上、18
11. アブドル・バハ、パリ講話集 / From a talk given on 19 November 1911, published in Paris *Talks: Addresses Given by 'Abdu'l-Bahá in 1911* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2006, 2016 printing), no. 32.2, p. 121.
12. バハオラ、隠されたる言葉、ペルシャ編 12
13. 同上、ペルシャ編 14
14. 同上、アラビア編 15
15. 同上、ペルシャ編 32
16. Bahá'u'lláh, in *The Bahá'í World: Volume One, 1925–1926* (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 1926, 1980 printing), p. 42.
17. *The Call of the Divine Beloved: Selected Mystical Works of Bahá'u'lláh* (Haifa: Bahá'í World Centre, 2018), no. 2.12, p. 17.
18. アブドル・バハ、聖なる計画の書簡 / *Tablets of the Divine Plan: Revealed by 'Abdu'l-Bahá to the North American Bahá'ís* (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 1993, 2006 printing), no. 13.6, pp. 95–96.
19. バハオラ、落穂集 34
20. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2010, 2015. printing), no. 40.3, pp. 118–19.
21. 同上, no. 40.3, p. 119.

22. アブドル・バハ、万国平和の普及 / From a talk given on 11 May 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace: Talks Delivered by ‘Abdu’l-Bahá during His Visit to the United States and Canada in 1912* (Wilmette: Bahá’í Publishing, 2012), par. 2, p. 153.
23. Selections from the Writings of ‘Abdu’l-Bahá, no. 206.13, pp. 356–57.
24. アブドル・バハ、パリ講話集 / From a talk given by ‘Abdu’l-Bahá on 21 November 1911, published in *Paris Talks*, no. 34.8, p. 133.
25. バハオラ、狼の息子の書簡



高揚する会話

目的

会話の中に精神的原則を取り入れる能力を修得する

セクション1

このブックの第1章で、私たちは神の言葉を他の人々と分かち合うことから生じる大いなる喜びについて話しました。奉仕の道を進む中で、私たちはバハオラの啓示から探り出した洞察を友人や知り合いと話し合う無数の機会に出会います。ですから、私たち皆が発達させる必要がある最も基本的な能力の中には、有意義な、高揚する会話に貢献するための能力が含まれます。この章と次の章の目的は、これに関して皆さんを助けることです。ここで皆さんは、機会がある時、精神的原則について触れることで会話のレベルを上げる方法という課題を扱います。第3章では、皆さんの住む町や地区に活気に満ちた共同体を築くための系統だった努力の一環として、特定のテーマについて一連の会話を開始し、維持する方法について考えます。

これからのセクションで私たちがすることは、様々なテーマについていくつかの声明を検証することです。それらの声明は、すべてアブドル・バハの講話や書簡に基づいて作られたもので、原文のままではありませんが、彼が使われた表現が多く含まれています。各声明を数回読み、考え方の法則性を特定し、それらの考えを自然に表現できるようになるまで、グループの皆が順に話す練習をしましょう。この練習は、話し合いを進めるために教えを使うことが適切と思われる時、私たちが無理なく話せるようになるために行います。

もちろん、この章で皆さんは引き続き、聖典からの言葉を暗記します。なぜならそれらは、人の心に浸透し、発言に織り込まれると、聞き手に深遠な影響を及ぼす特別な力を持つからです。しかし、会話に聖典を引用することには英知を要します。中庸、つまり、聖典から直接引用することと、信教の教えを説明するために自分自身の言葉を使うこととのバランスが必要です。このバランスを保つため、聖典の学習に多くの時間とエネルギーを捧げ、それらがあなたの考えや感情を形つくるようにする必要があります。

セクション2

あなた方が学習するよう求められる最初の声明は、人類を教育する教育者が必要だということに関するものです。

実在について考えてみると、鉱物界、植物界、動物界、そして人間界がそれぞれ全て、教育者を必要とします。庭は庭師を必要とします。豊作を得るため、土地は農夫を必要とします。人が荒野に放置されると、動物の方法を身につけるでしょう。もし、教育を受ければ、人は最高度の完成に達することができるでしょう。教育者がいなければ、文明はありませんでした。

教育には三種類あります。物質的、人間的、そして精神的教育です。物質的教育は身体的発展に関するものです。人間的教育は文明や進歩に関するものです。それは統治、社会秩序、人間の福利、商業、工業、芸術や科学、重大な発見、素晴らしい事業を扱っています。

精神的教育は聖なる完全性を獲得することにあります。これは真の教育です。なぜなら、この助けによって人間の精神的性質、より高い性質が発達させられるからです。

人類は、進歩するために、物質的、人間的、精神的な教育をもたらす者として明確な権威を持つ教育者を必要とします。もし、誰かが、「私は素晴らしい知性に恵まれている。私には教育者は必要ない」と言うとしたら、その者は明白なことを否定することになります。それはあたかも、子どもが「教育者なんて必要ない、自分の考えと理解力に沿って行動し、自分で優秀になる」と言うようなものです。

人類は常にそのような完全な教育者、身体的栄養と健康に関することがらを統合することができるよう助け、知識や発明、発見の進歩を促進し、そして、最も重要な点は、精神の生命を吹き込む者を必要とします。普通の人はいこれらの壮大な任務を達成することはできません。ただ、神の顕示者のみがこのような任務を果たす力を持つのです。それらは人類のための普遍的な教育者として、時代時代に、神より送られる、選ばれた魂たちです。

1. あなたのグループでこの声明を数回読み、この内容を十分に学び取るために互いに助け合い、ここに述べられた考えに関連する質問をしながら、この考えを自然に、無理なく表現する練習をしましょう。
2. 次に、ここで説明の仕方を学んだ考えを、どのように会話に導入できるか話し合しましょう。当然、友人に、教育には三つの種類があると突然言い出すことはありません。ですから、上述の考えがどのような交流の中で関連性を持つのかについて考えることは有益でしょう。話し合いの話題になるのは、社会の道徳的退廃、あるいは世の改善のためにどのように働くかということかもしれません。あなた方が友人、家族、知り合いたちと交わす様々な会話について振り返ってみましょう。それらの人々の心を占めている課題で、この声明の考えを中心とした会話に役立つものはありますか。

2. あなた方がいま学習したような課題についての話し合いで、しばしば質問が出ます。誰かに、「あなたが話している、それらの教育者とは誰のことですか」と問われたら、どう答えますか。

3. 以下は人間には教育者が必要ということに関連するバハオラの書物からの引用文のいくつかです。これらについて熟考し、最低一つは暗記しましょう。そうすれば、適切な時に自分の発言に聖なる書からの言葉を織り込むことができます。

人間はみな、常に進歩する文明を前進させるために創造された。¹

唯一真実の神が御自身を人間に^{あらわ}顕す目的はここにある。つまり、人間の最も奥に存在する真の自己の鉱山に潜む宝石をあらわにするためである。²

神が人類に預言者を送る目的は二つある。第一の目的は、人の子らを無知の暗黒より解放し、真の理解の光にみちびくことである。第二の目的は、人類の平和と平安を保障し、それらが確立されるためのあらゆる手段を提供することである。³

人々は常に、すべての状況下で、勧告を与え、導き、また指示を与え、教えてくれる者を必要とする。⁴

セクション3

以下の声明は、神は、顕示者たちを通してのみ知ることができるということについて述べています。以下は、友人と会話するとき助けになるでしょう。

無限の宇宙について深く考えてみてください。それは、創造者なしに創られたということは可能でしょうか。または、創造されたものが創造者の本質を理解することができると言えるでしょうか。全創造を見れば、次元の低いものは高いものの力を理解できないということがわかります。岩石や樹木、それらがどんなに進化しても決して視力や聴力のことを想像することはできません。動物は決して人間の本質を認識できませんし、人間の精神の様々な力を認識することもできません。ですから、創造されたものである私たちが創造者の本質を理解することなど、できるわけがないのです。

人間の理解力は決して神に到達できませんが、神を知ることを阻まれてはいません。時代時代に、神の顕示者である特別な御方が地上に現れます。神に属するすべての完全性、恩恵、栄光はそれら聖なる顕示者たちに見ることができます。ちょうど、きれいに磨かれた鏡の中に表れる太陽の光線のように。鏡が太陽を映し出しているということは、太陽がその高みより降りてきて、鏡に組み込まれたということではありません。同じように、神が神聖の天界からこの存在の段階に降りてくるということではないのです。つまり、人類が神の名や属性、完全性について知り、学び、理解することはすべて、神の聖なる顕示者たちのことなのです。

1. この声明をグループで数回読み、互いにその内容について質問しあい、答えた後、この考えをなめらかに言えるように練習しましょう。

2. では、ここで学んだ考えをどのように、自然に会話に取り入れることができるかについて、あなたのグループで話し合ひましょう。これは、例えば、神の存在、あるいは人生の目的について話し合ひ途中で簡単にできるのではないのでしょうか。その他に、家族や友人との間で持ち上がった話や質問で、これらの考えを分かち合ひ可能性をもたらす話題にはどのようなものがありますか。

3. 友人との会話で、今学んだ考えを紹介する機会があったとします。「神の顕示者らを通して人類が神について知ったことは、たとえば何ですか」と質問されたらどう答えますか。

4. この課題について友人と話すとき取り入れることができるように、以下にあげたバハオラの書からの引用文の一つ、あるいはいくつかを暗記してみましょう。

万物の起源に在す神おわを知り、神に到達するためには、真理の太陽から由来した、これらの光る実在を知り、そのもの達に到達する以外に道はないのである。⁵

顕示者は常に神の代表者であり、神の代弁者である。まことに、顕示者は神の最も優れた称号のあけぼの曙あけぼのであり、神の最も崇高な属性の黎明れいめいの場である。

6

さらに、神のすべての顕示者の行いやそのなすとげた事業、否、それのみか、彼らに係わるあらゆることや、彼らが未来に顕すであろうものはすべて神によって定められ、神の意志と目的の反映であることを確信せよ。⁷

セクション4

宗教の一体性は多くの人にとって関心のある事案です。以下の考えは、さまざまな場面で助けになるでしょう。

どのランプから射出する光であろうと、光を愛する者でなくてはなりません。どの庭に咲くバラであろうともバラを愛する者でなければなりません。真理がどこから出て来ようとも真理の探求者でなければなりません。一つのランプへの執着は他のところで輝いている光を正しく認識することを妨げます。真理を探究するにあたって、私たちは自分の先入観を取り除き、偏見を捨てなければなりません。コップが自我で満ち溢れていれば、命の水の入る余地はありません。

宗教は世界の光です。それは私たちの歩みを導き、永続する幸福への扉を開けてくれます。独断的な信条や盲目的な模倣の制限から解放されて、すべての偉大な宗教の教えを探求するとき、それらは同じ基盤に立っているということに気がきます。それらはすべて、神の知識を明らかにしています。すべての宗教は人間の世界の進歩を目指します。

もちろん、時代や場所の要件に応じて、各宗教によって広められる社会的な法と規定には違いがあります。しかし、本質においてすべての宗教は一つです。それらは信念、知識、確信、正義、敬虔、高潔、信頼、神への愛、慈善を養います。それらは純粹、離脱、謙虚、寛容、忍耐、志操堅固を教えます。これら人間の徳は、各宗教制で更新されます。

偏見や盲目的模倣のために、多くの人が宗教の根底にある一体性を見ることができないのは遺憾です。人類への神の導きは真理であり、真理には分離はありません。それは一つです。もし、私たちが先入観にとらわれることなく、独立して真理を探求するなら、その探求は一致につながります。宗教は私たちを一体化すべきものです。宗教は人々の間に愛の絆を築かなければなりません。もしそれが不和の原因になるのなら、ない方が良いでしょう。

1. セクション 3 と同じように、あなたのグループでこの声明を数回読み、互いがその考えに関する質問をし合いながら、その考えをうまく言えるように練習をしましょう。
2. ここで学習した考えを会話にどのように取り入れることができるか、グループで考えてみましょう。例えば、多くの人が気にしている宗教間の対立についてはどうでしょう。また、真実を見極めることやプロパガンダに操られないことの重要性を話し合っている場にいることがあるかもしれません。あなたが最近、友人や隣人、同僚、知り合いたちと交わした会話を振り返って見ましょう。彼らの関心事のうちで、このセクションでの話し合いが役に立つと思われるのはどのようなことですか。

-
-
-
3. 会話の中で上記の考えを分かち合ったとき、誰かに「すべての宗教に共通する真理にはどのようなものがあるか」と聞かれたらどう答えますか。
-
-
-

4. 以下のバハオラの引用文の一つか二つを暗記するようお勧めします。

人種や宗教が何であれ、世界の人々はみな一つの天の源から^{れいかん}靈感を受け、
みな一つの神の^{たみ}民である。このことに何ら疑う余地はない。⁸

親愛と友情の精神をもって、あらゆる宗教の信者^{まじ}と交われ。⁹

神の教えと宗教の根本の目的は、人類の利益を守り、その^{とうごう}統合を促進し、
人々の間に愛と友情の精神を養うことである。¹⁰

神の宗教は愛と和合のためにある。それを^{てきい}敵意と^{ふわ}不和の原因にするな。¹¹

セクション5

次に学習する課題は宗教と科学の関係です。

宗教は科学と一致しなければなりません。神は私たちに何が真理なのかを見出すようにと
理性を与えてくださいました。科学と宗教は共に理性に^{かな}適うことを求められています。です
から、それらは互いに符合する必要があります。宗教と科学は人間の知性を大いに高く飛
翔させる二つの翼であり、それらの翼で人類は飛び上がることができるのです。一つの翼
では不十分です。

科学は神の贈り物です。それは物質的世界の法則を発見し、自然が私たちに課した制限
の克服を可能にします。科学的手段の助けをもって、私たちは肉眼では見えないもの
を見、瞬時に、広大な距離を超えて交信します。科学は現在と過去をつなぎ、将来を見通し
ます。民の進歩は科学的な成果によります。

神の宗教は真理の促進者であり、知識の支持者、そして人類を文明化するものです。宗教がなければ、科学は物質主義促進の手段となっており、最終的には人々を絶望に導きます。宗教が科学に対立するとき、それは単なる迷信になります。宗教と科学が調和をもって共に進むとき、現在、人類に苦痛をもたらしている憎しみや悲痛の大部分は終わります。

1. いつものように、あなたのグループでこの声明の各節を数回読み、その内容を自然に表現できるほど十分学び取るまで互いに質問し合ひましょう。
2. 誰かが次のように言ったら、どのように答えますか。「宗教は過去のものだ。科学が人類の問題をすべて解決するだろう」このようなき、宗教は迷信ではないが、科学がなければ迷信になる、そして宗教のない科学は物質主義から生まれる絶望を導くと言うような説明は役にたつかも知れません。科学的根拠のない信仰が迷信になってしまった、あるいは宗教のない科学が絶望へと人々を導く例を挙げましょう。

3. バハオラの書物からの次の文節を一つ、あるいはいくつかを暗記するようお勧めします。

全能者が人間に付与し給う第一に重要な恩恵は、理解力という賜物である。… この賜物は、ものごとの真理を見いだす能力を人間に付与し、人間を正しい方向にみちびき、創造の神秘の発見を助ける。¹²

この世界を見、それについてしばし熟考せよ。この世界は汝らの目前に世界自体の本を明らかにし、すべてに精通し給う御方、造形者、汝らの主のペンがそこに記したことを現す。¹³

知識は人間の生命の翼のようであり、人間が上昇するための梯子のようである。知識の習得はあらゆる者の義務である。¹⁴

セクション6

人類の一体性は今日、あらゆる地の人々の心に響く事案であり、多くの人は下に示す考えについて話し合うことを歓迎するでしょう。

多くの色や香りの花々が並んで成長している花園^{はなぞの}は目を楽しませてくれます。そして、違いはあっても、それぞれの花は同じ雨によって生き返らされ、一つの太陽の温もりを受け取っています。このことは、人類にもあてはまるでしょう。人類は様々な人種で構成されますが、皆同じ神から発し、皆同じ起源を持っているのです。異なる音符が混ざり合って完璧な和音を作り出す音楽のように、人類家族の多様性は調和の源であるはずで

存在には統合が必要です。愛はまさに生命の源です。物質界ではすべてのものの要素は引力の法則によって結合しています。引力の法則は一定の要素を統合して美しい花の形を作ります。しかし、この引きつける力が消えてしまったら花は分解し、消失してしまうでしょう。人間も然りです。引き付け合い、調和と和合が人類を結びつける力なのです。

バハオラは世界の人々みなを一つにするための構想を示されました。私たちはこの和合の輪の中に人々を招き入れるためにあらゆる努力をしなければなりません。人種や国籍、宗教、意見が違う人と出会うとき、こういった違いが互いを隔てる障壁にならないようにすべきです。彼らを、人類の美しい庭に咲いている色とりどりのバラとみなし、彼らと共にいることを喜びましょう。

1. セクション 5 でしたのと同じように、上の声明を学習した後、あなたの周囲で交わされる多くの会話について考えましょう。人々が気にしていることで、これらの考えを分かち合うことができそうな事柄をいくつか挙げましょう。

2. 人類の一体性についての会話は自分たちの共同体の和合の重要性についての話し合いにつながるかもしれません。各自が共同体の和合にどのように貢献できるかについて簡単に述べてみましょう。

3. 友人とこの課題について話すときに、次の引用文を参考にすることができるように一つ、あるいはいくつかを暗記してはどうでしょうか。

和合の幕屋^{まくや}は建てられた。汝^{なんじ}ら、互^{たにんし}いを他人視してはならない。汝らは一本の木の果実であり、一本の枝の葉である。¹⁵

和合の光は非常に強力であり、それは地球上^てをすべて照らし得るほどである。¹⁶

汝らの顔を和合の方に向けよ。そして、和合の光の輝きもて自らを照らせ。共に集い、たとえ自分たちの間の論争の原因が何であれ、神のためにそれを根絶するよう決心せよ。¹⁷

友情や親切や和合を促進するものを固く守ることは、人としての義務である。¹⁸

セクション7

次の声明は、正義について話し合うときあなたの助けになるでしょう。この事案は大半の人々にとって非常に関心の深いものです。

個人の能力に違いがあることは、人間の存在における基本的なことです。ですから、みんなが皆、あらゆる点で平等であることは不可能ですが、人間の諸事は全て正義という原則によって治められなければなりません。正義は神聖でなければならず、万人の権利は守られねばなりません。

正義は制限されません、それは普遍的なものです。人間生活の全ての局面で機能する必要があります。社会の構成メンバー全員が文明の恩恵に与るべきです、なぜなら私たち皆は人類という一つの身体の一部なのですから。この身体を構成する一メンバーが苦悩や苦痛を感じていたら、他のメンバー皆も苦しみから逃れることはできません。一人が苦しんでいるのに、どうして他の人たちが気楽にしていられるのでしょうか。今日の社会には必要な互惠と調和が欠如しています。うまく整えられていないのです。人類家族全体の安寧と幸福を確保するためには、法と原則が求められます。

正義は、報酬と罰という二本の柱の上に確立されます。信仰心がなく、神の報復を恐れない者らが支配する政府は不当な法を執行するでしょう。立法者と行政者は、自分たちの決定もたらす精神的結果を認識しなければなりません。自分たちの行いの結果は、この地上の人生を超えてついて回ると信じて、自分たちの判断が神の正義という秤で量られることを知る支配者たちは、必ず、暴政や圧政を回避するでしょう。

1. 上に示された考えを自然に表現することができるようになったら、どのような話題について話しているとき、この声明にある洞察が役立つか、考えてみましょう。

2. 不正義は決してなくなると信じている人に、あなたはどうか答えますか？

3. 以下は、正義に関するバハオラの書物からのいくつかの引用文です。暗記するようお勧めします。

人間の輝きは正義である。圧政と暴虐^{ぼうぎゃく}の逆風でその光を消すなかれ。正義の目的は人々の間に和合をもたらすことである。¹⁹

正義に比較^うし得る輝きはない。世界の構築と人類の安寧^{あんねい}は正義に依存する。²⁰

世界を鍛^{きた}えるものは正義である。それは報酬と罰という二本の柱によって支えられる。この柱が世界の命の源泉である。²¹

セクション8

貧富の差は日ごとに広がっています。以下の声明は、この問題とそれに関連する課題について友人たちと話すとき、役に立つでしょう。

今日、社会は互惠^{ごけい}、および調和のある関係が欠如しているため、ある人たちはとても快適で豪華^{ごうしゃ}な暮らしを満喫^{まんきつ}しており、一方で、ある人たちは食料や住居にもこと欠いています。ある人たちは法外^{ごくひん}に裕福^{あえ}で、他の人たちは極貧^{あえ}に喘いでいます。

社会の法は、少数の者たちが過度の富を蓄積すること、またある人たちが貧困に陥ることがあり得ないように制定され、施行されなければなりません。これは、全てが等しくなければならないという意味ではありません。と言うのも、程度や能力の違いは創造物につきものだからです。しかし、氣力を喪失させるほどの貧困を伴う、富の嘆かわしいだぶつきは廃止することができます。資本家が富を所有するのが正当なら、労働者が生存に十分な収入を持つべきということも同じように正当です。極度の貧困が見える場合、どこかに圧制があるに違いありません。

問題の本質は、神の正義は人間の状況の中に出現しなければならないということです。経済状況全体の基礎は本質的に神聖であり、心と精神の世界に関連しています。富者は自分たちの富を分け与えなければなりません。彼らは優しい心、思いやりある知性を養わなければなりません。富裕層は経済的調整を恒久的に確立する措置を意欲的に講じるようになるほどまでに、人々の心と心がしっかりと結ばれ、愛が有力にならなければなりません。地域社会に極貧が存在しているのに、自分たちが莫大な富を所有することは公正でも合法でもないと彼ら自身が気づかなくてはなりません。このようにして、彼らは、快適な暮らしに必要なだけを持続しながら、自らの富を進んで差し出すでしょう。

1. 上記の声明を精読し、いつものようにグループ内で学習してください。例えば、就職、賃金、住環境など、人々の心には富と貧困に関する多くの課題があるでしょう。これらの他に、この声明に示されている考えが役に立つ話し合いの議題を挙げられますか？

2. 上に示された考えをあなたが話しているのを聞いていた人が、「君は、金持ちがより多く納税することの必要性を理解し、支持するようになり、実際自ら進んで払うべきものを払うようになってきているのかい？ どうしてそんなことが可能と思えるんだ？」と質問したら、どう答えますか？

3. バハオラの書物からのこれらの引用文を、一つか、二つ、覚えましょう。

…汝ら自身と他のものの利益のために、立派なる素晴らしき果実を結ばねばならぬ。かくて技術を身に付け職業に従事することは万人の義務である。そこにこそ富の秘訣があるからである。おお理解力ある人々よ。…²²

汝の目を慈悲に向けるのなら、汝に益をもたらすものを放棄し、人類に益をもたらすものを固守せよ。また、汝の目を正義に向けるのなら、汝自身のために選ぶものを、隣人のために選べ。²³

自身よりも、兄弟を優先させる者は幸いなり。²⁴

善行は、これまでも、これからも失われることは決してない。何となれば、慈善の行為はそれを行った者のために神のもとに保管される宝であるから。²⁵

…中庸の領域より踏みだすことのないよう注意せよ。そして放蕩と浪費に生きるものらの内に数えられないよう注意せよ。²⁶

セクション9

以下は、偏見についての話し合いに参加するとき役立ついくつかの考えです。

宗教、人種、性、民族、経済など、あらゆる形態の偏見は人類という建造物を破壊し、神の命令に対立するものです。数千年もの間、人類は、これらの偏見のいずれかによって引き起こされた戦いや流血の惨事に悩まされてきました。偏見が存続する限り、人類に休息はありません。

神は愛と和合を創り出すという唯一の目的のために、預言者たちを送られました。全ての天来の書は愛の文章です。もし、それらが疎遠の原因となってしまったのならば、それらは無益なものとなります。ですから、宗教的偏見は、特に神の意志と命令に対立するものです。

国家的偏見は正当化できるものではありません。地球は一つの郷、一つの国です。国を分ける境界線は、想像上のものであり、神の創られたものではありません。人々は、一本の川を二つの国の境界線であると宣言し、それぞれの側に名前をつけます。しかし、その川は双方のために創られたものであり、全ての人々のための天然の経路です。生命の恵みを戦争や破壊の原因にするよう人々を駆り立てるのは、妄想と無知なのではないでしょうか。

人種的偏見は迷信でしかありません。人の肌の色は、その人の先祖たちが、長い間に、気候と環境に適合していった結果にすぎないのです。人類の真の基準は性格にあります。優秀さは人種や肌の色で左右されはしません。神の敷居で受け入れられるものは信仰心、心の純粹さ、良い行い、賞賛に値する発言です。

実に長いこと、女性は男性に従属させられ、不当に扱われてきました。男女の区別は物質的世界での必要条件であって、精神界では男女は平等です。神の判断では、男性と女性の区別はありません。全ての人々は知性と理解力を神から授けられており、美德を身に付

ける能力を持っています。現代、性別を根拠に差別を行使できる状況はありません。

旧約聖書の言葉によると、神は、「私の姿に似せて、私のように人間をつくろう」と言われました。これは明らかに女性にも当てはまります。人間は神の面影に似せて創られたということは、神の美德が人間の実態に反映され、現されるということです。これは全人類に当てはまります。特定の肌の色、一つの民族、一つの国籍の者だけが神に似せて創られたと主張することは、全くもって受け入れられないことでしょう。裕福な者だけが神に似せて創られたとほめかす、あるいは、神に近いことの基準は社会的地位の高さであると考えことはどれほど馬鹿げたことでしょう。人類は、偏見を捨て、王国の道徳を身につけない限り、啓発されることは不可能です。

1. 前の声明について行ったと同じように上記の内容を学習してから、友人や隣人たちとの会話で出てきた偏見の除去を必要とする問題をいくつか振り返ってみましょう。

2. あなた方が上に示された考えを分かち合っている時、「偏見を持っているのに、それを自覚していないということはあるだろうか？」と質問されたら、どう答えますか。

3. ここで学習した考えを他の人たちと分かち合うときに、バハオラの書物から引用した以下の句のいずれかを会話に取り入れる機会がみつかるかもしれません。

地球は一つの国であり、人類はその市民である。²⁷

世界の全ての苗木は一本の「木」から発生し、全ての水滴は一つの「大洋」から発生した、そして全ての存在物は一つの「存在」のお陰^{かげ}で実在する。²⁸

この日、自らを全人類への奉仕に捧げるものこそが真の人間である。²⁹

良い性格の光は、太陽の光や輝きをしのぐ。³⁰

人の特異性は飾りや富にあるのではなく、むしろ、徳のある行いや真の理解にある。³¹

願わくは、汝らが迷信という偶像を粉碎し、人々の妄想の暗幕を引き裂くよう、あらゆる状況下で神が援助し給いますように。³²

あらゆる人間のうち最も怠慢なるものは、無益なる論争をし、兄弟より自ら優らんことを望む者である。³³

セクション10

男女平等についての以下の声明に込められた考えは、友人との会話に役立てることができるでしょう。

太陽はその光と熱を通して、地上の全てのものの実態を明らかにします。木の中に隠されている果実は、太陽の力に反応してその枝に現れます。同様に、精神的天空に燦然と輝く「真理の太陽」は、過去には明らかにされていなかった現実を明らかにします。それゆえ、この時代に、男女平等の原則が完全に認められ、今では確立された事実となりました。

バハオラは、神の目から見て男女の区別はないと非常にはっきりと述べておられます。過去の時代に存在した不平等の実態は男性の優越性によるものではなく、単に女性は自分たちの能力の全てを開花させる、対等の機会を与えられていなかったからにすぎません。しかし、女性が差別されていたにもかかわらず、歴史には偉業を成し遂げた数多くの女性の生涯が記録されています。

その一人が、ペルシャの詩人タヘレです。彼女は1800年代の初め頃に、女性が男性に全面的に従属させられていた国に生まれました。タヘレは、神の新たな「啓示」の真理を受け入れた最初の女性です。彼女は、新たな「日」の夜明けを目撃して、男女平等の現実が認められる時が来たことを確信したのです。タヘレはこの真実を広めることに身を捧げました。彼女の知識と雄弁さは、同時代の最も学識高い男性たちをも圧倒しました。抑圧的な王と、無知で高慢な聖職者たちは全力で彼女に対抗したのですが、彼女は一瞬たりとも、真実を語ることを躊躇しませんでした。そして、最終的に、彼女は、確固として受け入れたこの大業に命を捧げました。

神の意向ではないことを信じるのは無知であり、迷信です。今日、女性は、教育を受け、人間活動の全ての分野で男性と同等の地位を引き受けるあらゆる機会を与えられるべきです。精神界にあるように、男女の平等がこの世で現実のものとならない限り、人類の真の進歩は不可能です。

1. いつものように、グループでこの声明を学習し、この考えを言葉にする練習をしてください。最近、友人と交わした会話で、この説明の示す洞察が役立つようなものはありますか。それらはどのような話題でしたか。

2. あらゆる活動分野で、女性が男性と同等の立場を引き受けるとき、今日の社会に蔓延している見解や姿勢で変えなければならないものがいくつかありますか。

3. 以下は、バハオラの書物からの引用文です。暗記してみませんか。

女性と男性は、神の目から見れば平等であったし、また常にそうである。

34

何故われ汝らすべてを同一の土塊より創れるかを知るや。何人も他より自らを高しとなすべきにあらざるためなり。³⁵

この時代に、神の恩寵の手はあらゆる差別を取り去った。神の僕と侍女は、同じ水準にあると見なされる。³⁶

セクション11

最後に学習する声明は、普遍的教育という課題です。

教育の促進は、この時代、最も差し迫った要件です。教育を中心的関心事の一つにしない限り、どの国も繁栄を達成することはできません。国民の衰退の主な原因は、知識を入手する機会の欠如です。

教育は、幼少期に開始しなければなりません。自分たちの子どもを教育し、精神的かつ道徳的な法則に沿って子どもたちの人格を磨き、彼らが芸術と科学の分野で訓練されるのを確実にするために最善を尽くすことは、その父と母の義務です。母親は、人類の最初の教育者です。母親は知識の胸で子どもたちを養育します。全ての子どもが教育を受けなければなりません。これは疎かにはできません。両親が必要な費用を賄うことができるなら、両親はそうしなければなりません。そうすることができなければ、共同体が、その子どもが

教育を受けられるよう援助しなければなりません。

教育は、全ての人間に卓越したいという願望を育てるものです。私たちは、人間の完璧さに魅了され、情熱を傾けてそれを追求しなければなりません。誠意、忠誠、人類への奉仕、愛と正義のような人間世界の美德で知られるようになること、精神的に傑出することを切望しなければなりません。平和と和合を促進し、学びを促す努力によって特徴づけられるようにならねばなりません。こうした道で人々を導くことが教育の真の務めです。

1. あなたのグループでこの声明を学習した後、友人たちが教育に関して持っている気がかりをいくつか挙げましょう。上に示した説明は彼らの気がかりにどのように応えていますか？

2. 以下はバハオラの書物からの引用文です。一つ、二つ、暗記するようお勧めします。

人が知識も技能も持たずに放置されるのは望ましくない。なぜなら、そのような者は不毛の木にすぎないからである。³⁷

汝らは、自らの心と意志とを地上の民の教育にかたむけ[...]なければならぬ。³⁸

芸術、工芸、科学は、存在の世界を高揚させ、その高みへと導く。³⁹

まことに、知識は人間にとって正真正銘の宝であり、人間の栄光、恩寵、喜び、高揚と慰め、そして歓喜の源である。⁴⁰

セクション12

平和は全ての人気がしている問題です。平和の確立は最も緊急かつ重要な課題です。ここまでの声明で説明された原則について検討してきました。ですから、ここで世界平和という課題について熟考することは意味があるでしょう。

もちろん、戦争をなくすための現実的措置は政府に大きく依存します。平和の追求には、紛争解決や軍縮のための政治的協定、また様々な形式の国際協力が不可欠です。しかし、そのような措

置がいかに大切であろうとも、以前に話し合った原則が世界全体に確立されなければ、恒久平和はもたらされません。人々が現実を直視することを学び、真理は一つということに気付かない限り、古くからの敵意は執拗^{しつよう}に続くのではないのでしょうか？人間の起源は同じです。神は私たち全てを見守り、神の顕示者たちを通して皆を教育されます。顕示者の教えは、愛と友情という基盤の上にあります。宗教の一体性が認められて初めて、宗教的な紛争は終わり、宗教の光が平和への道を照らします。無知と偏見は平和にとって強力な障壁^{しょうへき}です。その無知の雲を追い払い、あらゆる形の偏見の偽りを立証するために、科学と宗教とが調和のうちに働く必要があるのではないのでしょうか。現在見られる貧富の極端な格差に対して、地上の全地域で対処されることなくして、平和な世界は建設できるのでしょうか。さらに、女性が男性と対等の立場で、人間の活動の全ての領域に参加することが可能になるまでは、歴史の多くを特徴つけている暴力が平和と真の繁栄に道を譲ることはないでしょう。若い世代の全員が、これらの原則に沿って教育されなければなりません。さもなければ、平和への希望はことごとく打ち砕^{くだ}かれるでしょう。人類の未来に関心を寄せる人々と分かち合えるように、以下のバハオラの言葉を暗記しませんか。

人類の和合が確立されない限り、人類の幸福、平和、安全は決して実現しない。⁴¹

参照文献

1. バハオラ、落穂集 109
2. 同上、132
3. 同上、34
4. バハオラ、バハオラの書簡(ケタベ・アグダス後の啓示)
5. バハオラ、ケタベ・イガン(確信の書)
6. バハオラ、落穂集 28
7. 同上、24
8. 同上、111
9. 同上、43
10. 同上、110
11. バハオラ、バハオラの書簡(ケタベ・アグダス後の啓示)
12. バハオラ、落穂集 95
13. バハオラ、バハオラの書簡(ケタベ・アグダス後の啓示)
14. 同上
15. バハオラ、落穂集 92
16. 同上、132
17. 同上、111
18. バハオラ、バハオラの書簡(ケタベ・アグダス後の啓示)
19. 同上
20. バハオラ、「神の正義の到来」でショーギ・エフェンディによって引用
21. バハオラ、バハオラの書簡(ケタベ・アグダス後の啓示)
22. バハオラ、隠されたる言葉、ペルシャ編 80
23. バハオラ、バハオラの書簡(ケタベ・アグダス後の啓示)
24. 同上
25. Bahá'u'lláh, in *Huqúqu'lláh—The Right of God: A Compilation of Extracts from the Writings of Bahá'u'lláh and 'Abdu'l-Bahá and from Letters Written by and on Behalf of Shoghi Effendi and the Universal House of Justice*, compiled by the Research Department of the Universal House of Justice, no. 16.
26. バハオラ、落穂集 118
27. 同上、117
28. Bahá'u'lláh, cited by Shoghi Effendi, *The Promised Day Is Come*, par. 279.
29. バハオラ、落穂集 117
30. バハオラ、バハオラの書簡(ケタベ・アグダス後の啓示)
31. 同上
32. 同上
33. バハオラ、隠されたる言葉、ペルシャ編 5
34. Bahá'u'lláh, in *Women: Extracts from the Writings of Bahá'u'lláh, 'Abdu'l-Bahá, Shoghi Effendi and the Universal House of Justice*, compiled by the Research Department of the Universal House of Justice, no. 54.
35. バハオラ、隠されたる言葉、アラビア編 68
36. バハオラ、編纂書「女性」

37. Bahá'u'lláh, in *Excellence in All Things: A Compilation of Extracts from the Bahá'í Writings*, compiled by the Research Department of the Universal House of Justice, no. 5.
38. バハオラ、落穂集 156
39. バハオラ、狼の息子の書簡
40. バハオラ、バハオラの書簡(ケタベ・アグダス後の啓示)
41. バハオラ、落穂集 131



ディープニング・テーマ

目的

精神的に意義深いテーマについて話し合う
ために友人や隣人たちを訪問する習慣を
身につける

セクション1

この第3章は、第2章と同じく有意義な、しかも高揚する会話をする能力に関する内容となっています。第2章では、精神的原則に触れることによって会話のレベルを高める様々な機会に焦点が当てられていました。この章では、友人や隣人たちの家を訪問し、共同体生活の核心となるようなテーマを彼らと共に探っていくことに焦点が移っています。

友人のグループが世界中の町や地域において、定期的な祈りの集い、子どもの精神教育、ジュニアユースの集まり、スタディ・サークル、ユース・キャンプ、様々なキャンペーンといった、相互に関連のある一連の活動に、集中的に取り組んでいます。この活動のパターンが一つの地域に定着し、奉仕に取り組む人が増えてくるにつれ、中核となって活動する人の数も増え、力が強くなっていきます。町や地域で多くの家を系統的に訪問することは、勢いの増している共同体作りのプロセスにおいて不可欠な要素です。そういった訪問では多様なテーマが話し合われます。例えば、子どもクラスの先生は、子どもたちの保護者を頻繁に訪問して、教育に関するテーマについて話し合います。同じように、アニメーターやチューターとして奉仕している人たちも、ジュニアユースやユースの家を訪問し、人生において、前途洋々な彼らの年代に起こりうる困難や好機に関する事柄について話し合う必要があります。同時に、訪問先の家族と信教の知識を深めるテーマについて、会話することも不可欠でしょう。全体的にそのような訪問が、共同体に芽生えている親交の文化に及ぼす効果は計り知れません。

セクション2

この章の目的のために、上に述べたプロセスが進展している、ある架空の地域を見てみましょう。そして、その設定で、家庭訪問の際、展開されるであろう話題をいくつか検証しましょう。

アレハンドラは、大学3年生の若い女性です。彼女の兄弟のうちの1人も学生で、架空の場所にある、自分の生まれ育った家で両親と暮らしています。この家族4人と、最近引っ越してきた若い夫婦は、毎週集まってお祈りをしたり、人口8,000人くらいの地域内に生まれつつある活動の進展について協議をしたりしています。その他に3人が、週ごとの集まりに時々参加して、自分たちの奉仕についてだけでなく、共同体作りのプロセス全体のことについても、系統的に考え始めています。その3人というのは、6か月前に子どもクラスを始めた先生と、アレハンドラの兄の助けのもとにジュニアユース・グループの取組みを指導している17歳のユース2人です。アレハンドラの兄は、若い

とき、アレハンドラたちのグループのアニメーターをしていて、今は定期的に両親に会いに来ています。

私たちが検証する最初の一連の会話は、アレハンドラとサンチェス一家との会話です。アレハンドラの家の近所に住むサンチェス夫妻はともに60代で、息子や娘はすでに独立しており、二人暮らしです。夫妻は、その地域ではよく知られていて尊敬もされています。読み書きはできますが、学校で教育を受ける機会はありませんでした。彼らが大勢の人に尊敬されているのは、寛容と純粋な行いに満ちた人生の経験を通して身につけた知恵によるものです。二人は、以前からバハイの教えのことは知っていましたが、それについて、本格的に調べてみようと思ったのはごく最近です。一週間前、彼らは、アレハンドラの両親にバハイ共同体に加わりたいという願望を伝えました。二人を歓迎する集まりはすでに計画されており、それに加えて、アレハンドラが数週間、定期的に二人を訪問して、バハイ信教に対する知識を深めることを助ける一連のテーマを共有するとことになりました。訪問のストーリーをたどることにより、皆さんはこれらのテーマを探求できると同時に、そのような場面での会話について熟考することができるでしょう。

セクション3

アレハンドラは、神の永遠の^{せいやく}聖約というテーマについて、以下のような簡潔な説明をふまえて、サンチェス夫妻との最初の会話をすることにしました。

万物の創造者は神であり、唯一にして比類なき御方、御自力で存在する御方です。バハオラは、神の本質は人間の心には理解できない、なぜなら有限なものは無限なものを理解できないからであると教えておられます。人間が語る神の^{びようしや}描写は、自分たちの想像の産物にすぎません。神は人間ではなく、また、宇宙全体に広がる単なる力でもありません。例えば、「天の父」「天の力」「偉大なる精神」といった、私たちが存在の「源」について述べるとき、止むを得ず使う言葉は、神の名と属性を人間の言葉で表わしているのであって、神を描写するにはまったく不十分です。

「かくされたる言葉」には、こう書かれています。

おお人の子よ！

われ汝の創造を愛した。さればこそわれ汝を創った。されば汝、われを愛せよ。われ汝の名を呼び、汝の魂を生命の生気もて満たし得んがために。

1

この引用文において、バハオラは、私たちに対する神の愛こそが私たちの存在の理由であると述べておられます。私たちは、常にこの愛を意識しなければなりません。神の愛は、私たちを保護し、支え、生命の活力で満たしてくれます。試練の時も安らぎの時も、悲しみの時も喜びの時も、神の愛は常に私たちを包み込んでいるということを忘れてはなりません。

バハイの教えを通して、神は神の愛ゆえに私たちを創られ、私たちと聖約(Covenant)を結ばれたことを知ります。「契約(covenant)」という言葉は、二人以上の人の間で交わされる協定、または約束を意味します。永遠の聖約によると、すべてに恵み深き創造者は決して私たちを見捨てず、いつの時代にも顕示者を通して神のご意志や目的を私たちに知らせます。

「顕示する」という動詞は、現す、これまで知られていなかったものを示す、という意味です。神の顕示者たちは神の御言葉をあらわす特別な存在です。彼らは普遍的な教育者で、神のご意志に従った生き方や、真の幸福を達成する方法を教えます。これらの顕示者の中にはアブラハム、クリシュナ、モーゼ、ゾロアスター、仏陀、キリスト、ムハンマド、そしてもちろん、この時代の^{いつい}対の神の顕示者、バブとバハオラが含まれます。

このようにして、永遠の神の聖約で、神の側からの約束は常に果たされてきました。私たちがみな、自分自身に問うべき根本的な問いは、「聖約における自分の側の約束をどう果たすか」ということです。その答えは顕示者を認め、その教えに従うことによって果たすということであると、すべての聖典に書かれています。この答えこそが、まさに私たちの人生の目的を指し示しています。その人生の目的とは、神を知り、崇拝することです。「短い必須の祈り」で私たちは次のように宣言します。

神様、あなたが私を創り給いましたのは、あなたを知り、あなたを崇拝するためでありますことを証言いたします。今こそ私の無力なことと、あなたの御力の大きいなることを、また私の貧しさと、あなたの御豊さを証言いたします。

あなたの他に神はいまさず、あなたは危難きなんの中の御救いにおわし、ご自力にて存在し給う御方にまします。²

顕示者を通さずに神を知ることは不可能ですから、人生の目的を達成する唯一の方法は、顕示者たちを認め、彼らの教えに従うことです。私たちの心は、すべての聖なる書に示されている「地上に平和と正義が確立される」であろうという約束が果たされつつある時代に生きているという恩恵への感謝あふで溢れます。

バハオラは次のように宣言しておられます。

今日こそは、神の最もすばらしい恩寵おんちようが人々の上に注がれている日であり、神の最も偉大なる恩恵がすべての創造物に浸透している日である。汝らの間の不和を解消し、完全なる和合と平和をもって神の保護じあいと慈愛の木陰に定住せよ。³

アレハンドラとサンチェス夫妻の物語を進める前に、上記の説明を読み、グループの参加者と段落ごとによく考え、話し合しましょう。各自がこの考えを自然に表現できるようになるまで、互いに質問し、答えを出し合います。今回のような会話において、聖なる書からの文章を共有することは不可欠であるため、引用文をよく暗記することは特に重要です。次の練習は、このセクションに示されている考えや引用文の意味について考える助けとなるでしょう。

1. 神は知られることのない存在であるということを、どのように人に説明しますか？この点に関しては、前述の説明の第一段落を参考にしましょう。

2. 神は、なぜ私たちが創られたのですか。

3. 「聖約」という言葉の意味は何ですか。

4. 人間との「神の永遠の聖約」において、神は何を約束されましたか。

5. 私たちの人生の目的は何ですか。

6. 神の本質を決して知ることができないのなら、私たちの生きる目的が神を知ることであるというの
はどういう意味ですか。

7. 「顕示する」という言葉の意味は何ですか。

8. 神の顕示者を何人か挙げてください。

9. 聖約を満たすために、私たちの側には何が求められていますか。

10. 次の文を完成させなさい。

a. 今日こそは、神の _____ が人々の上に注がれている日である。

b. 今日こそは、神の _____ がすべての創造物に浸透している日である。

c. 今日こそは、私たちの間の不和を_____させて完全な和合と平和をもって

_____。

11. バハオラは、私たちに何をせよと求めておられますか。_____

セクション4

アレハンドラの心にあったのは、単に、サンチェス夫妻と共有しようとしているテーマの内容だけではありません。彼女は、夫妻との友情の絆を深めていきたいと思っています。彼女は、偏見や先輩ぶった態度の悪影響を自分の経験を通して知っているので、当然、それらを避けようと思っています。彼女の受けた、より高い学校教育が謙虚けんきよであることを妨さまたげるようなことはありません。心には、サンチェス夫妻への純粋な愛と尊敬があるばかりです。彼女は、最初のテーマをどう説明するか考えながら、この最初の会話は、これから何週間かで展開していく会話の始まりであるということ意識しています。一連の考えを明確に提示することは重要ですが、要所要所で立ち止まり、二人の応答を聞くべきであると分かっています。「緊張しないようにしなければ。緊張すると一方的に話を続けてしまい、会話が成り立たなくなる」と彼女は、自分に言い聞かせます。アレハンドラは、このような感じで、しばらく自分の訪問について考えます。あなたが彼女の立場なら、次のどれが適切な考えだと思いますか。

- ___ 信教についてサンチェス夫妻を指導し、彼らが私の教えることをすべて学ぶように世話をするのが私の仕事である。
- ___ この素晴らしい夫妻としばらくのあいだ一緒に過ごし、聖典からの引用文を分かち合うということはなんといい恩恵だろう。
- ___ この人たちを訪問することは重要だとはわかっている。でも、他にしなければならぬことがあるので、あまり時間がかからないといいのだが…。
- ___ 引用文は彼らには難しすぎるだろう。要点を二、三説明するにとどめておくべきだ。大切

なのは愛を示すことだ。

- サンチェス夫妻の年齢では多くを学ぶことはできない。
- 夫妻を訪ねて、テーマについて話し、引用文の内容についての理解を深め合う中で、彼らの洞察を聞くのが楽しみだ。
- 二人は読むことができる。だから、主題だけを紹介して、自分たちで勉強するように引用文は残して帰ることにしよう。
- 内容を説明している時、引用文を共に勉強し、話し合うために、^{てきぎ}適宜、^ま間をとるべきである。
- 最後まで^{さえぎ}遮られずに全部テーマを説明してから、最後に何か^き質問があるか訊けるといいのだが…。

今回のような訪問の準備にあたり、望ましい、あるいは望ましくないと思う態度について考えましょう。

セクション5

アレハンドラのサンチェス家への最初の訪問は上手くいきました。二人はアレハンドラが緊張しているのを察して、暖かく親切に接しながら、彼女の気持ちを楽にしてくれました。二人は特に引用文に注目しながら、注意深く耳を傾け、熱心に話し合いに参加しました。ただ一度、アレハンドラが難しさを感じたのは、最後にサンチェス夫人が持ち出した「バハイ共同体の一員になることはキリストを^{おろそ}疎かにしてしまうことになるのでしょうか？」という、予想外の質問でした。答えは分かっているのですが、それをどう言葉にしたらいいかアレハンドラが考えていると、サンチェス氏が^{ほほえ}微笑んで^{たす}助け船を出してくれました。「実のところ、私のキリストへの愛は、バハイの教えについて学びはじめてから強くなったと思うよ」と。そこで、ようやく、どのように答えを表現すればいいか分かったアレハンドラは付け加えました。「そうですね、世界中のたくさんの人々が同じように感じているでしょう。モーゼ、キリスト、クリシュナ、仏陀、ゾロアスター、そしてムハンマドへの人々の愛は、バハオラが、神の一体性、宗教の一体性、人類の一体性について教えておられることによって強められています」

訪問中にアレハンドラが示した、どんな資質や態度がアレハンドラの訪問を実りあるものにしたのか、グループで話し合ってみましょう。考慮する必要がある資質や態度の中で最も重要なのは謙虚さです。謙虚さの基礎は、神の前における謙虚さです。そこから、神の創造物に対する謙虚さが湧き出します。神とその顕示者について話すときほど、謙虚さが重要な時はありません。次のバハオラの言葉について、熟考し暗記してみましょう。

いかなる場所に集い、いかなる人と接するときも、神に愛される人々は神に対する態度と、神を賛美し、その栄光を称える姿勢を通じて、自らの謙虚さと従順を立証しなければならない。それは、彼らの足もとの塵の原子が彼らの献身の深さを証言するほどのものでなければならない。これら聖なる人々の交わす会話は、塵の原子を感動に震わせるほどの威力に満ちていなければならない。彼らの振舞いは、決して彼らの踏み付ける大地に、次のように語らせるものであってはならない。「われは汝らに優る存在である。農夫がわれに課す重荷をわれがいかに忍耐強く支えているかを見よ。われは、恩寵の源泉におわす神がわれに託し給う恩恵を、生命あるすべてのものに絶え間なく分け与えるための手段である。われには名誉と富が授けられ、わが富はあらゆる生命体の必要を満たすに余りあるのである。わが富の数え切れないほどの証拠にもかかわらず、われがいかに謙虚であるかを見よ。完全な従順をもって人の足もとに身を置くわが姿を見よ…」。⁴

前にも述べたように、人々に対する謙虚さは、神の前における謙虚さから生じるものです。私たちが友人や隣人を訪問し、あるテーマについて共に理解を深める時、その同じ謙虚さをもって敬虔な態度をとります。会話の間、私たちはしばしば神を思い起こし、参加者の気持ちや心を、神が照らしてくださるよう願います。そのような時のために暗記しておく良い言葉がたくさんあります。これらはその一部です。

私どもの心を明るく照らし、認識力ある目と注意深い耳とを授け給え。⁵

おお主よ、私どもにあなたの無限の賜物を授け給え。導きの光を灯し給え。⁶

真の理解力の扉を開け放ち、信仰の光を輝かせ給え。⁷

おお主よ、あなたの御光を仰ぐことができますよう私どもの目を照らし給え。⁸

私はすべてを捧げてあなたを仰ぎ、全身全霊をこめてあなたに嘆願いたします。あなたのこの聖なる和合の時代において、御心に逆らうすべてのものから私を守り給え。⁹

セクション6

サンチェス家を訪問し、永遠の聖約というテーマについて二人と会話をしたことで、アレハンドラの心は喜びに溢れています。「次の訪問は、二人がバハオラの生涯についての知識を深めるいい機会になるだろう」と、アレハンドラは考えました。以下は、アレハンドラが構想している説明の内容です。

バハオラは1817年11月12日、ペルシャの首都・テヘランでお生まれになりました。バハオラは子どもの時から特別な性質を現し、両親は彼が偉大な運命を背負っていることを確信していました。王様の宮殿で高い地位の大臣であったバハオラの父は、息子をこよなく愛していました。ある夜、父は夢を見ました。その夢の中で、バハオラは広大な海を泳いでおられました。身体は光り輝き、広い海を明るく照らしていました。バハオラの長い真っ黒な髪の毛は四方に広がって漂い、その1本1本に魚の大群がつかまっていました。魚の数の多さにもかかわらず、抜け落ちる毛は全くありませんでした。バハオラは何ものにも邪魔されることなく自由に泳ぎまわられ、そのあとに全ての魚がついて泳ぎました。バハオラの父がある賢者にこの夢の意味を説明してもらったところ、「広大な海は存在の世界を表しており、バハオラはたった一人で存在の世界に主権を打ち立てるであろう。魚の大群はバハオラが世界の人々の間に巻き起こす混乱を表す。バハオラは、全能者の絶え間ない保護を受けており、その混乱は彼を傷つけることはないだろう」と告げられました。

13、4歳のころには、既にバハオラはその英知と学識で王宮に名を馳せていました。22歳の時に父親が亡くなり、政府は父親の地位を継ぐようバハオラに提案しました。しかし、バハオラは世俗的な事に従事する気はありませんでした。バハオラは王宮と大臣職を捨て、神がお定めになった道に従いました。虐げられた者や病気の^{しいた}人、貧しい人たちの援助に時

間を捧げ、まもなく正義の擁護者^{ようごしや}として知られるようになりました。

バハオラは27歳の時、特別な使者を通してバブによって記された文書を受けとられました。バブは、新しい神の顕示者が現れて、人類が長い間、待望している平和、和合、正義を世界にもたらす新しい日の夜明けを宣言していました。バハオラはただちにその宣言を受け入れ、バブの最も熱心な信者の一人となりました。しかし、何ということか、ペルシャ国民を統治していた者たちは、自分の利己的な欲望に目がくらみ、バブの信者たち(バビ教徒)を激しい残酷さで迫害し始めました。地位の高さにも関わらず、バハオラも例外ではありませんでした。バブの宣言から8年、そして、バブの殉教から2年経った頃、バハオラは「暗黒の穴」と呼ばれる暗い土牢に投げ込まれました。首にかけられた鎖のあまりの重さに、バハオラは頭をもたげることさえできませんでした。ここでバハオラは、困難極まりない過酷な4ヶ月を過ごされました。しかし、この土牢で神の聖霊がバハオラの魂を満たし、自分こそがバブが予言していた、すべての時代に約束された顕示者であるという啓示がバハオラにもたらされました。こうしてバハオラの太陽はこの暗い牢獄から昇り出て、全創造を照らしました。

「暗黒の穴」での4ヶ月の後、バハオラは全財産を剥奪^{はくだつ}され、家族と共に追放されました。冬の厳しい寒さの中を、バグダッドに向けてペルシャ西部の山岳地帯を移動しなければなりません。今はイラクの首都であるバグダッドは、当時オスマン帝国の都市でした。運命の都市に向かって、雪と氷で覆われた大地を何百キロも歩いた苦難は、言葉ではとても表せないほどひどいものでした。

バハオラの名声は、たちまちバグダッド中やその周辺の都市に広まり、ますます多くの人々がこの追放された囚人^{しゅうじん}の祝福を受けようと、彼のもとへとやって来ました。しかし、バハオラの名声を妬む^{ねた}者がいました。その中にはバハオラの異母弟で、バハオラの愛情深い庇護の下に生活していたミルザ・ヤーヤもいました。ミルザ・ヤーヤの陰謀はバブの信者たちの不和の原因となり、バハオラに深い悲しみをもたらしました。ある夜、バハオラは誰にも告げずに家を出て、クルディスタンの山に行かれました。そこで祈りと瞑想の、ひっそりとした生活をされました。小さな洞穴^{ほらあな}に住み、ごく質素な食べ物で過ごされました。誰も彼がどこから来たのか、何という名前なのかも知りませんでした。しかし、次第にその地方の人々は、神から授かった知識を持つ偉大な聖人である「名のない人」について語り始めました。この聖人の話がバハオラの長男のアブドル・バハに届いたとき、彼は即座にそれが敬愛する父であると察しました。そして、使者が派遣され、バグダッドに戻るよう嘆願する手紙がバハオラのもとに届けられました。バハオラはこれを受け入れ、2年続いた苦痛に満ちた別離に終止

符が打たれました。

バハオラの不在の間に、バビ教徒の共同体の状態は急速に衰退^{すいたい}していました。バハオラは山から戻られたあと、バグダッドに住まれた7年間で、迫害され、混乱に陥^{おちい}ったバビ教徒を新しい精神で満たされました。ご自分の偉大な地位について、彼はまだ宣言してはおられませんが、バハオラの言葉の威力と英知は、増えつづけるバビ教徒の忠誠と各階級の人々の称賛を勝ち取り始めました。しかし、多くの人々にとてつもない影響を及ぼすバハオラの力を見ることは、狂信的なイスラム教の聖職者にとって我慢ならないことでした。イスラム教の聖職者たちは当局に何度も不満を訴え、ついにペルシャ政府はオスマン帝国の一部の役人と手を結び、バハオラを母国からさらに離れたコンスタンティノープルへ送ることにしました。

1863年の4月はバグダッドの人々にとって、とても悲しい月になりました。バグダッドの人々が愛するようになった存在は、未知の目的地に向かってこの地を去ることになったのです。出発に先立って、バハオラは市郊外の庭園^{こうがい}に移り、テントを張り、12日間、別れを告げるために押し寄せてくる大勢の訪問者を迎え入れられました。バビ教徒たちは、憂い^{うれ}に沈んだ心でこの庭園にやって来ました。バハオラの次の流刑地^{るけいち}に同行できる人もいるのですが、大部分はあとに残り、バハオラと身近に接することができなくなります。しかし神はこの機会を悲しいものとはされませんでした。神の無限の恩恵の扉は広く開かれ、バハオラは自分こそがバブによって予言された者——神が顕^あわし給う御方——であることを、そこに集まった人々に宣言されたのです。悲しみは、この上ない喜びに変わりました。皆の心は高揚し、魂はバハオラへの愛の火で燃え立ちました。4月のこの12日間は、世界を包み込むご自身の「使命」についてバハオラが宣言された記念日、「レズワンの祝祭^{しゅくさい}」としてあらゆるところで祝われています。

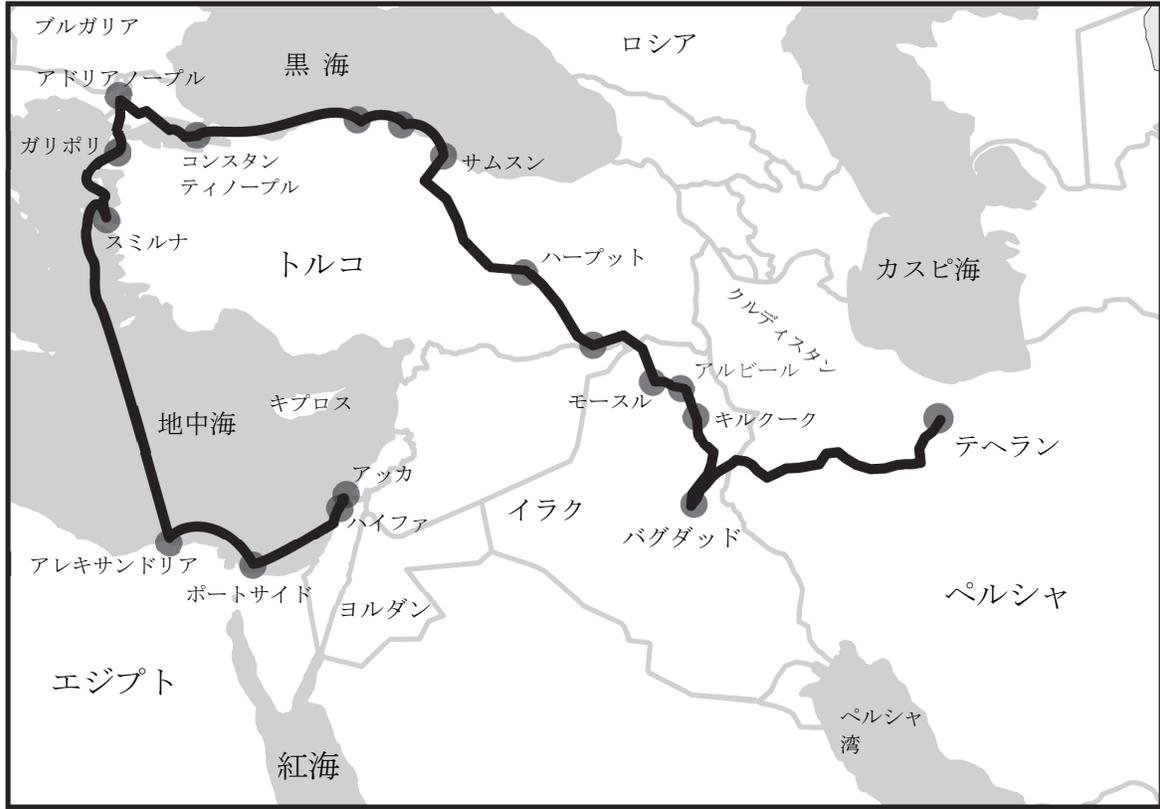
コンスタンティノープルは、オスマン帝国の首都でした。ここでもまた、ほんの4か月で、バハオラの大いなる英知と人格的な魅力は多くの人々を引き付け始めました。「彼をこれ以上、コンスタンティノープルに留まらせるべきではない」と考えた狂信的なイスラム教の聖職者らは、当局にバハオラをアドリアノープルに追放するよう説得しました。バハオラは、4年半、アドリアノープルに滞在することになり、その間に国王たちや世界の統治者たちに圧制をやめ、国民の福利に専念するよう呼びかける書簡を著されました。その後、バハオラの名声を妬む者たちは、最も残酷^{さんこく}な処分を思いつきました。バハオラとその家族をアッカに送ることにしたのです。当時、アッカは帝国全土で最悪の流刑地でした。神ご自身が始

められた計画を止めることができると想像した愚かな者たちは、「その監獄都市の過酷な状態で彼は必ず滅びるであろう」と考えたのです。

アッカでバハオラが受けた苦難は、あまりに多くて詳述することはできません。慰めになるものは一切なく、昼も夜も敵に囲まれておられました。しかし、収容の状況も徐々に変わっていき、アッカの住民も政府も、自分たちの街に追放されてきたバハオラとその随行者たちの無実を確信するようになりました。ここでもまた、大方の人はバハオラ彼の偉大な地位を理解することはできませんでしたが、人々はこの偉大な御方の英知と愛に引き付けられました。約9年後、バハオラと随行者たちを閉じ込めていた監獄都市の門が開かれました。バハオラの息子アブドル・バハは父のために、街を囲む塀の外に彼の威厳にふさわしい場所を確保し、やがて、田舎に屋敷を借りることができました。バハオラは、その屋敷で彼の晩年の13年間を比較的平和に、平穩に過ごされ、1892年5月、今は「バージの邸宅」として知られるそのお屋敷で、威厳と栄光の中、昇天されました。

バハオラは世界平和と兄弟愛の旗を掲げ、神の御言葉を啓示されました。敵はバハオラに抵抗するために力を合わせましたが、テヘランの牢獄で鎖につながれていたとき、神が約束されたように、バハオラは勝利されたのです。バハオラの存命中、そのメッセージは何万人もの人の心を生き返らせました。そして今日、バハオラの教えは世界中に広がり続けています。人類を一つの普遍的な大業と一つの共通の教えのもとに和合させようとする、バハオラの究極の目標の達成を阻むことができるものはありません。

上にあげたバハオラの生涯についての説明は、かなり長いものです。以下の練習に入る前にグループで段落ごとに読み、互いに質問しあって内容を十分に学び、自分の言葉で言えるようにしてください。次の地図は、バハオラ追放の道をたどり、その中で起こった出来事を覚えるのに助けになるでしょう。



1. 先の説明に基づいて下の欄にバハオラの生涯での主要な出来事を書き出してみましょう。

2. バハオラの生涯というテーマについて話し合うときは、一連の出来事そのものではなく、強調すべき概念が多数あります。特に、人類への愛ゆえに耐えられた苦難と同時に、抵抗に直面しながらも、ご自身の信教によって達成された大いなる勝利について、熟考することが重要です。次の言葉を心に刻みましょう。

古来の美が鎖に繋がれることに同意したのは、人類がその束縛から解放されるためであり、この最も強固な砦の囚人となることに甘んじたのは全世界が真の自由に達するようにするためである。古来の美は、地上のすべての人々が永遠の喜びを得て歓喜に満たされるよう悲哀の杯を飲み干したのである。これは汝らの主の慈悲である。彼こそは憐れみ深く、最も慈悲深き御方におわす。おお、神の一体性を信ずるものらよ。われは、汝らが高められるようにと卑しめられることを受け入れ、汝らが繁栄するようにと無数の苦悩に耐えるのである。全世界の再建のために到来した彼のおかれた状況を見よ。自らを神の協同者と称するものらによって、彼は最も荒廃した都市に住むことを強いられたのである。¹⁰

3. バハオラの苦難について話す時、バハオラを敵に対して無力であった犠牲者として説明することがないように注意しなければなりません。バハオラは人類を解放するために鎖でつながれることを受け入れられたのです。バハオラの生涯の物語は多くの受難に満ちていますが、その本質は勝利です。あなたのグループのチューターの助けを得て、バハオラの生涯について、いま持っている知識をもとに、彼の受難と勝利について短くまとめ発表できる準備をしましょう。次の質問はその助けとなるでしょう。

a. なぜバハオラは鎖につながれることを受け入れられたのでしょうか。

b. なぜバハオラは囚人になることを受け入れられたのでしょうか。

c. なぜバハオラは悲哀の杯を飲み干すことを受け入れられたのでしょうか。

d. なぜバハオラは卑しめられることを受け入れられたのでしょうか。

e. なぜバハオラは多くの苦難に合われたのでしょうか。

f. バハオラは無力でどうすることもできなかったから、苦難を受け入れたのでしょうか。

g. バハオラは敵の前で無力ではなかったのなら、なぜ苦しめられることを受け入れられたのでしょうか。_____

セクション7

アレハンドラの2回目のサンチェス家訪問も、初回と同じように喜びに満ちたものでした。サンチェス夫妻はバハオラの生涯についてすでにいくらか知っていましたが、アレハンドラの説明を通してさらに学びを得ることを喜び、バハオラを受難に確かに心を打たれていました。ある時点でサンチェス夫人は、「神の顕示者はいつも、指導者の地位や世俗的権力を渴望する人たちの手によって苦しめられるようですね」と、感慨深げかんがいがいぶかに言いました。アレハンドラは、自分が覚えている引用文を二人と分かち合うのによりタイミングだと考えました。その引用文は皆さんもセクション6の学習で知っているものです。バハオラはその引用文で、人類が圧政から解放され、永続する幸福に到達するようにと、人類のためにご自分が被こうむられた苦難について語っておられます。三人は皆、その日の話し合いに活気づけられました。

アレハンドラはすぐに、次の訪問のときは、アブドル・バハの地位が話し合いのテーマとして適切だと決めました。彼女は、以下のポイントについて取り上げようと思っています。

バハオラの長男であるアブドル・バハは、人類史上、他に類を見ない人物であり、私たちは彼のような人物を過去のどの宗教にも見ることはできません。アブドル・バハはまだ子どもの頃に自分の父親の聖なる地位を認識し、父親の苦難くるざいと流罪を共にしました。アブド

ル・バハは、バハオラに、ご自分の死後のバハイ共同体の世話と保護を任されました。バハオラが、最も崇高な啓示だけでなく、ご自身の息子までも遺した^{のこ}ことによって人類に与えられた膨大な恵みについて、私たちは完全に理解することはできません。バハオラは、アブドル・バハの知識と英知を通して、世界は導かれ照らされるであろうと述べられました。

アブドル・バハの生涯と彼の言葉を学習するとき、アブドル・バハがこの宗教制において占める特別な地位についての洞察を得るでしょう。この地位の三つの側面を心に留めておきましょう。

第一は、アブドル・バハはバハオラの聖約の中心であるということです。バハオラは信者たちと聖約を結び、心はその聖約の中心であるアブドル・バハに向け、完全に忠実であるようにと呼びかけられました。アブドル・バハは遺訓で、ショーギ・エフェンディを自分亡き後に顔を向けるべき中心・信教の守護者として指名しました。今日、この中心は万国正義院です。それはバハオラの明示と、アブドル・バハ、および守護者によって与えられた明白な指示に沿って制定されたものです。聖約の力はバハイ共同体を一つにまとめ、それを分裂や崩壊から守ります。

第二は、アブドル・バハはバハオラの言葉の無謬^{むびゆう}の解釈者であるということです。バハオラの啓示は広大で、その言葉に込められた意味はとても深遠であるので、バハオラは自分の亡き後のために、ご自身が靈感を与えた解釈者を残す必要があると考えました。これから何世代にも渡って、人類はアブドル・バハの数々の書簡と講話集を通して、アブドル・バハの解釈を学習することにより、バハオラの教えを理解することができます。アブドル・バハ亡き後、守護者であるショーギ・エフェンディはバハオラの教えの解釈者となり、彼をもって解釈は完了し、この後、バハオラの宗教制においてはバハオラ^の言葉を解釈する権限は誰にもありません。

これまで全ての宗教は、聖なる書の文節について異なった解釈をめぐる分裂に悩まされました。しかし、この宗教制では、バハオラ^の言葉の意味が不明確なとき、全ての人はアブドル・バハと守護者の解釈に顔を向けます。それでも不明確さが残った場合、万国正義院に明確化を求めることができます。ですから、教えの意味をめぐる論争の余地はなく、信教の一致が守られます。

第三は、アブドル・バハはバハオラ^の教えの完全なる模範者^{もはんしや}であるということです。私たち

は決してそのような域に達することは望めませんが、それでも常にアブドル・バハを模範とし、彼に倣^{なら}うよう努める必要があります。聖なる書で愛について読むとき、アブドル・バハに目を向けると、愛と優しさ^{しんずい}の真髓^{しんずい}を見ることでしょう。純粹、正義、正直、喜び、寛大について読むとき、アブドル・バハに目を向け、彼の人生を考えると、アブドル・バハがこれらの資質をいかに実践したかが見えるでしょう。

アブドル・バハの生涯を一言で表すならば、それは神への^{れいぞく}隷属^{れいぞく}です。アブドル・バハというお名前^{しもべ}の意味は「バハの僕」であり、これは彼の呼び名の全ての称号の中で、最もご自身が好まれたものでした。以下のアブドル・バハの言葉は、ご自身の神への奉仕に対する熱烈な願いを表明するものです。

われ^{われ}の名前はアブドル・バハ。我の資格はアブドル・バハ。我の实在はアブドル・バハ。われ^{ほま}の誉^{ほま}れはアブドル・バハ。「祝福された完全」への^{れいぞく}隷属^{れいぞく}はわが荣誉^{かんむり}ある、輝^{かんむり}きの冠^{かんむり}であり、全人類への隷属^{れいぞく}はわが永遠の信仰である。… 今までも、そして、これからもアブドル・バハ以外にいかなる名称、称号、言及、賞賛も決してない。これは我の切望である。これは我の最大^{あこが}の憧^{あこが}れである。これはわが永遠の生命であり、我の不朽^{ふきゅう}の栄光である。¹¹

アレハンドラが次の訪問でサンチェス夫妻と分かち合おうとしているものは、^{ひるい}比類なき人物^{ひるい}について知る上での序章でしかありません。アブドル・バハがこの宗教制において占める特別な地位に対する二人の理解は、今後、深まり続けるでしょう。皆さんが奉仕の道を歩むその人生の中で、アブドル・バハの模範を思い起こし、その言葉について熟考する機会がたくさんあるでしょう。すでに、第2章でみなさんはアブドル・バハの言葉に親^{した}しみ、書簡や講演で述べられた数々の考えと、アブドル・バハが使われた表現を学びました。アブドル・バハの地位について自分たちの現時点の理解を強固なものとするため、上述のアブドル・バハの地位の三つの側面について話し合い、それらを上手に言えるよう練習しましょう。アブドル・バハの言葉を熟考することは、皆さんが奉仕の道を進む努力をする上で励みになるでしょう。

セクション8

アレハンドラはサンチェス夫妻の訪問を始めて以来、この二人が地域で進んでいるコミュニティ作りの確固とした積極的な担い手になるのを助けるにはどのようなテーマについて話し合うのが良

いかということに気をかけています。精神的生活の基盤は継続して強化されなければならないので、話し合いたいテーマの中には、祈り、魂の不滅性、神の愛に不動であること、というようなものが含まれます。一方では、徐々に発展していくコミュニティのイメージをもち、その実現に向けて自分が貢献できることを知ってもらうことが重要です。アブドル・バハの地位について、サンチェス夫妻と話している間に、アレハンドラには次の訪問のテーマが浮かんできました。「人々を一つにするという信教の目的はかなり明快なので、私たちがここで探求すべきテーマは、和合したコミュニティをどのように作り出し、持続していくかということだ」と考えました。

四度目の訪問時にアレハンドラは、地域で、比較的小さなグループが最近取り組んでいる様々な活動について説明しました。そして、「私たちが担うべき最も困難な責任は、私たちの言葉、思考、そして行動がよりいっそう団結することです。もしよろしければ、今日は和合というテーマと一緒に考えませんか」と切り出しました。

「コミュニティの発展にとって、和合がどんなに重要か分かります」と、サンチェス婦人は応えました。

「なにしろ、私たちの心が最初に引き付けられたのは、バハオラの教えの和合のメッセージだったんですよ」と、サンチェス氏が言いました。

「私はいくつかの考えを選び出して、それぞれに引用文を見つけました。それらを一つずつ見て、話し合いませんか」と、アレハンドラが言いました。

以下は、アレハンドラが作ったリストです。

- ・ 私たちの共同体が本当の和合に達するために、一人一人が争いや論争を避けなければいけません。バハオラは述べておられます。

この日において、この大業に最大の危害を加えるものは何か。それは、神に愛されし人々の間の不和、争い、論争、離反、冷淡である。神の威力と全能なる援助により、これらすべてを逃れよ。そして、統合者、全知者、全賢者という神の御名のもとに人々の心を結び合わせるよう努力せよ。¹²

- ・ 共同体の全ての人を愛する必要があります。その愛は神に対する私たちの愛の反映です。アブドル・バハは述べておられます。

完全に一体となりなさい。決して互いに腹を立ててはなりません。… 相手のためでなく、神のために創造物を愛しなさい。神のために彼らを愛すなら、決して腹を立てたり、苛^{いらだ}立ったりすることはありません。人間は完全ではないのです。誰もに不完全さがあるのであり、人間自体に目を向けるならば、あなた方はいつも悲しくなるでしょう。しかし、神に目を向けるならば、彼らを愛し、彼らに優しくなるでしょう、なぜなら、神の世界は完全性の世界であり、完全なる慈悲の世界だからです。¹³

- ・ 私たちが互いに対して感じる愛の全てをもってしても、緊張関係が生じたら、^{ただ}直ちに、アブドル・バハのこの助言を思い起こさなければなりません。

皆さん、愛と和合に心からの思いを集中してください。戦いへの思いが湧いたときはそれに勝^{まさ}る平和への思いで反対しなさい。憎しみの思いは、より強力な愛の思いで滅ぼさなければなりません。戦いへの思いはあらゆる調和、幸福、安寧、安心^{あんねい}の状態を破壊に導きます。

愛の思いは連帯、平和、友情、幸福を打ちたてます。¹⁴

- ・ そしても、それらを抑制するためにあらゆる努力をしても、感情が抑えられず、他の人々と対立してしまったなら、バハオラのこれらの言葉を思い起こしましょう。

もし汝^{なんじ}らの間に何らかの不和が生じたならば、汝^{なんじ}らの眼前^{がんぜん}に立つ我^{われ}を見よ。そして、わが名のために、また、燦然^{さんぜん}と輝くわが明白なる大業への汝^{なんじ}らの愛^{あかし}の証として、互いの欠点に目をつぶれ。¹⁵

- ・ 他人の欠点は大目にみて、賞賛すべき資質に集中し、陰口を完全に絶つという精神的規律は不和に対抗する最も効果的な手段です。互いに愛があれば、陰口の傾向をより容易に克服することができます。愛する人たちの欠点はあまり気にならず、罪を隠す目で彼らを見るのは難しくないということを思い出しましょう。アブドル・バハは述べておられます。

不完全な目は欠点を見ます。短所を覆い隠す目は、魂の創造者の方を見ます。創造者は魂を創造し、教育し、養い、能力と命、視力と聴力を与えます。ですから、それらは神の壮大さのしるしです。すべての人を愛し、親切にしなければなりません。貧しい人を世話し、弱い人を守り、病める人を癒し、無知な人を教え、教育しなければなりません。¹⁶

バハオラは勧めておられます。

おおわが玉座の伴侶よ！悪しきことを聞くな。また悪しきものを見るな。汝自らを卑しくするな。歎き悲しむな。悪しきことを語るな。さればそれが汝に語られることもなし。他人の過ちを誇張して語るな。されば汝自らの過ちも大げさに思われず。何人の屈辱をも望むな。されば汝自らの屈辱もさらされまい。かくて汝儚き一瞬よりも短き汝の生涯の日々を、汚れなき心と清き心情と純潔なる思考と、また汝の聖められたる性格とをもちて生きよ。されば汝自由かつ満足してこの死すべき形骸を放棄し、神秘なる楽園に行き、永遠に不滅なる王国に永久に住むを得ん。¹⁷

さらに、述べられました。

おお移住者らよ！舌はわれを語るために、わが創りしものである。悪口をもってそれを汚すな。汝ら自我の火によって襲われた時は汝ら自身の過ちを思い出し、わが創りし者らの過ちを思うな。汝らはすべて他人のことより自分のことをよく知る故に。¹⁸

- ・ 和合は単に争いや不和がないということでもなく、愛は言葉だけで表されるべきでもありません。お互いに対する愛がコミュニティへの奉仕に反映され、活動が協力と互助の精神によって動かされているとき、初めて私たちの中に真の和合があると言えます。アブドル・バハは私たちに求めておられます。

一瞬たりとも休まず、しばしの間^{いあん}の慰安をも求めず、むしろ、友らの一人

に対してであっても献身的に奉仕を捧げ、輝く心の一つに対してであっても幸福と喜びをもたらすよう心魂込めて努めなさい。これは真の恵みであり、それによりアブドル・バハの額は照らされるのです。私の仲間となり、この事業の提携者となりなさい。¹⁹

また、こうも述べておられます。

人類にとって最も必要なことは協力と互助です。人々の中の友情と連帯の絆が強ければ、人間活動の全ての領域で建設性と達成の力は一層大きくなるでしょう。²⁰

- ・ コミュニティ活動を成功させる最も重要な鍵は、あらゆることについての率直で愛情ある協議です。協議を通して、課題について各自の様々な見方が融合され、集団的行動で取るべき方向性を見出すことができます。協議を通して私たちは思考の和合に達し、和合した思考とビジョンのもとにコミュニティ発展のための効果的な計画が作られます。アブドル・バハは協議する人たちについて述べておられます。

共に協議する者に最も必要な条件は、動機の純粹さ、精神の輝き、神以外のすべてから超脱していること、聖なる芳香に魅せられていること、神に愛される人たちの間で謙虚であること、困難にあつて長く忍耐すること、そして神の高遠なる敷居への奉仕である。もし、慈悲深い援助によってこれらの美德を身につけることができれば、見えざるバハの王国から勝利が下されるであろう。²¹

- ・ 思考の和合は行動の和合に反映されなければ未完成のままです。和合のある行動とは、全員が同じことをするという意味ではありません。コミュニティのメンバーの様々な才能は、和合した行動に最大限に活かされます。まだメンバーの数が少ない時でさえ、私たちの力は倍増し、世界の巨大で強力な機関が達成できないようなことを果たすことができます。アブドル・バハは述べておられます。

天の力を引きつけた聖なる魂たちが精神のそのような資質をもって立ち上がり、整列し一体となって行進するときにはいつでも、これらの魂の一つ一つ

があたかも一千のごとくにもなり、その強大な大洋の押し寄せる波は天の軍勢のいくつもの大部隊のようになるであろう。²²

上の文章を注意深く読み、グループの参加者とその要点を話し合あった後、これまでの三つのセクションでしたようにこのテーマを説明する練習をしましょう。以下の練習は助けとなるでしょう。

1. 次の文章を完成させましょう。
 - a. この日において、この大業に最大の危害を加えるものは何か。それは、神に愛されし人々の間の_____、争い、論争、離反、冷淡である。
 - b. この日において、この大業に最大の危害を加えるものは何か。それは、神に愛されし人々の間の不和、_____、論争、離反、冷淡である。
 - c. この日において、この大業に最大の危害を加えるものは_____。_____、神に愛されし人々の間の不和、争い、論争、離反、冷淡である。
 - d. この日において、この大業に最大の危害を加えるものは何か。それは、神に愛されし人々の間の不和、争い、論争、離反、_____である。
 - e. この日において、この大業に最大の危害を加えるものは何か。それは、神に愛されし人々の間の不和、争い、_____、離反、冷淡である。
 - f. この日において、この大業に最大の危害を加えるものは何か。それは、神に愛されし人々の間の不和、争い、論争、_____、冷淡である。
 - g. この日において、この_____に最大の危害を加えるものは何か。それは、神に愛されし人々の間の不和、争い、論争、離反、冷淡である。
2. 二番目の引用文で、アブドル・バハは私たちに述べておられます。
 - a. 私たちは完全に_____とならなければならない。

- b. 私たちは決して_____に_____ならない。
- c. 私たちは、自分たちのためだけでなく、_____のために全ての人々を愛さなくてはならない。
- d. 私たちが_____のために人々を愛すなら、私たちは決して_____、_____ことはありません。
- e. 人間は_____ではありません。
- f. _____あり、_____に目を向けるならば、私たちはいつも_____でしょう。
- g. 私たちが、_____に目を向けるならば、私たちは人々を_____、彼らに_____なるでしょう。

3. 三番目の引用文で、アブドル・バハは述べておられます。

- a. 私たちは_____と_____に心からの思いを集中させる必要があります。
- b. 戦いへの思いが湧いたときは、_____で反対すべきです。
- c. 憎しみの思いは_____で滅ぼさねばなりません。
- d. 戦いへの思いはあらゆる_____、_____、_____、_____を破壊に導きます。
- e. 愛の思いは_____、_____、_____、_____を打ちたてます。

4. 自分と共同体の他の人たちとの間に不和が生じていることに気づいたらどうしますか。

5. 自分の共同体の和合に向けた貢献するのに役立つ精神的規律を述べましょう。

6. 以下のどれが和合の助けになりますか？

- 他人の欠点を気にする
- 他人の短所を大目にみる
- 他人の欠点について友人に話す
- ある人の面目を潰す^{つぶ}ために話を大げさにしたり、変えたりする
- 人の短所について考える

7. 人が過ちを犯したとき、ある人については酷^{こくひょう}評し、他の人については全く同じことをしても非難しないのはなぜでしょう。_____

8. 人々が互いに陰口を言い合っている状況で和合することは可能ですか？ なぜ不可能なのですか？ _____

9. 誰かについて嘘をつくことは明らかに間違いです。しかし、誰かが実際に行ったことについて他の人に批判して述べることは構わないのでしょうか？ _____

10. 噂話、陰口、他の人たちを批判する。これらの違いはなんですか？ _____

11. 噂話、陰口、共同体について常に批判する。これらは、共同体にどのような影響を及ぼしますか？

12. どうすれば、私たちの日常からこれらの習慣を排除することができますか？ _____

13. ある人たちについて、その人たちがその場になくても、いるかのように話すとしたら、どのような態度になるでしょうか？

14. 子どもたちの前で陰口をたたいた場合、その子らにどのような影響を及ぼしますか。

15. 噂話や陰口をたたく習慣をもたらすものは何でしょう。 _____

16. バハオラは勧告しておられます。「汝ら自我の火によって_____時は_____、_____。汝らはすべて_____より_____故に。」

17. 愛は言葉だけで表現されるのではありません。では他に何が必要ですか？ _____

18. 和合と愛について、アブドル・バハは私たちにこう呼びかけておられます。「一瞬たりとも_____、しばしの間_____、むしろ、友らの一人に対してであっても_____に_____を捧げ、輝く心の一つに対してであっても_____よう_____なさい。」

19. 彼はさらに述べておられます。「人類にとって最も必要なことは_____と_____です。人々の中の_____と_____の絆が強ければ、人間の活動の全ての領域で_____と_____の力は一層大きくなるでしょう。」

20. 共同体活動の成功の最も重要な鍵は？ _____

21. アブドル・バハは、協議する人たちについて述べられました。「共に協議する者に最も必要な条件は、_____、_____、_____、_____、神に愛される人たちの間で_____、困難にあつて_____、そして神の高遠なる敷居への_____。もし、慈悲深い

援助によってこれらの美德を身につけることができれば、見えざるバハの王国から

_____」

22. 和を持って働くことの力について、アブドル・バハは述べられました。「_____を引きつけた聖なる魂たちが_____のそのような_____立ち上がり、整列し_____行進するときにはいつでも、これらの魂の_____があたかも_____、その強大な大洋の押し寄せる波は_____の_____のようになるであろう」

セクション9

サンチェス夫妻への四度目の訪問の時、アレハンドラは、夫妻の孫娘ベアトリスと出会いました。ベアトリスは祖父母の家の近くの高校に通う間、祖父母の家に住むためにやってきました。ベアトリスは和合というテーマにとっても関心があり、話し合いに熱心に参加しました。会話の終盤、サンチェス夫人がコーヒーとケーキを出してくれました。その時、アレハンドラはベアトリスとさらに親しくなり、近隣でのコミュニティ作りの活動について話すため、翌日会うことにしました。「ベアトリスはインスティテュートのコースに興味を持つかもしれない」とアレハンドラは思いました。「ベアトリスがブックのはじめを着実なペースで進むのを手伝えるかもしれない。そのうちに、彼女は子どもクラスを始めたり、この地区で私が作ろうとしているジュニアユース・グループを手伝ってくれるかもしれない。ブック5まで進めば、ベアトリスもグループの責任を徐々に負うことができるし、アニメーターとしての役割を果たす準備ができる」アレハンドラは、これまで数回ユースの集まりに参加しました。そのユースの集まりでは特定の課題に焦点を当てて話し合いがされ、それをきっかけに、多くのユースのインスティテュートのコースに参加しました。アレハンドラは次の日、ユースの集まりと同じ流れでベアトリスと会話をしてみようと考えました。その会話は次のように始まりました。

私たちは皆、世界がより良い場所になることを望んでいます。世界が平和になり、人類がひとつの家族として和合して暮らす未来を楽しみにしています。そのような未来は夢ではなく、より多くの人々が、世界のより良い発展に貢献しようと努力することで実現することができます。私たちの心の奥底には、コミュニティに貢献したいという願いがあります。私たちが必要としているのは、公共の利益のために奉仕する力を育てることです。

人類への奉仕は、私たちが共に歩む道のようなものだと考えることができます。この道はすべての人に開かれています。一人一人がその道に入ることを決め、自分のペースでその

道を歩みます。ですが、私たちはこの道を一人で歩くではありません。私たちは友と一緒に奉仕し、一緒に学び、お互いに支え合います。その道の一步一步は喜びと確信を生み出し、すべての努力は聖なる確証をもたらします。

ベアトリスはアレハンドラが話したことを気に入り、この短い説明の後、活気に満ちた会話が続きました。先に進む前に、新しく友人になったこの二人の会話の性質について振り返りましょう。アレハンドラはベアトリスをインスティチュートのコースに誘うため、このような深い内容の会話を試みました。ただ単に、インスティチュートは一連のコースを提供しています、あなたも一緒にしませんか、と話すだけではどうして不十分だったのでしょうか。

セクション10

アレハンドラとベアトリスの会話は2時間くらい続きました。アレハンドラはさらに、以下に挙げる考えを友人になったばかりのベアトリスと分かち合いました。もちろん、アレハンドラは延々と説明を続けたわけではありません。2時間のほとんどは、下に挙げる考えを一緒に考えることに費やされました。

私たちは若く、エネルギーがあり、熱意に溢れています。人々は私たちを呑気だと思ってくれますが、私たちは、人類の窮状を憂い、社会に真の変革をもたらしたいと考えています。また、教育、仕事、友人、家族といった自分自身の生活についても考えなければなりません。年を重ねるごとに、私たちはより多くの責任を負うようになります。例えば、両親は私たちに多くのことを期待しています。そのような自分の責任を考えると圧倒されてしまうこともあります。そんなとき、私は暗記しているバハイのある言葉を思い出します。それは「人

の一生には春の季節があり、その時期にはすばらしい栄光が賦与^{ふよ}されている。青年期は体力と活力によって特徴づけられ、生涯で最も拔きん出た時期である」という言葉です。

私が伝えたいのは、私たちのように共同体作りに取り組んでいる世界中の多くの若者が、2つの目的によって、自分のエネルギーが方向づけられるということに気づいている、ということです。その2つの目的とは、自分自身の知的・精神的な成長に主体的に取り組むことと、社会の変革に寄与するということです。この2つの目的は、相互に関連しています。個人の能力を高めることで、他の人に奉仕することができるようになり、他の人とお互いに助け合うことで、個人として成長し、自分の持つ資質を高めることができます。

ここで、先に述べた「奉仕の道」という考え方が出てきます。その道を歩くことは、単なる人生のおまけではなく、すべての行動に意味を与えてくれます。地域コミュニティへの奉仕は、教育を受ける目的をより深く理解し、将来についての考えを明確にし、家族の幸福に貢献するために必要な資質を養うのに役立ちます。また、その資質によって、友情を深めることができるようになる一方、つまらないことにエネルギーを使わないようにしてくれます。

私たちの精神的、知的成長を考える上で、私たちに影響を与えている様々な力を意識しなければなりません。その中には、知識の力、正義の力、愛の力のように、私たちに正しい方向に導いてくれるものがあり、私たちは自分をそれらの方向に合わせることを学ばなければなりません。物質主義や自己中心的な勢力のような正しい方向に導くのは逆のことをする力もあり、私たちはそれらには抵抗しなければなりません。私たちは、卓越^{たくえつ}したものを得るために努力し、その努力によって聖なる確証が与えられるという信念を持たなければなりません。

暴力、貧困、苦しみの世界を、平和、^{はんえい}繁栄、調和の世界に変えるという社会の変革への貢献を考えると、私たちは物質的な進歩と精神的な進歩の両方を考慮しなければなりません。精神的な進歩がなければ、すべての人々のための物質的な進歩は達成されません。この2つが手を取り合ってこそ、世界をより良くすることができるのではないのでしょうか。もうひとつ私が暗記している言葉があります。「物質文明はランプ、一方、精神文明はそのランプの光のようなものである。物質文明と精神文明が一体となれば、私たちは光とランプを同時に持ち、その結果は完全である」という言葉です。

奉仕の道を歩む中で、私たちはいろいろな人たち、特に子どもやジュニアユースに働きかけることを学んで、彼らが知識や技術、精神的な資質を身につけることを助けます。また、地域コミュニティの和合に注意を払うことも学びます。地域コミュニティの発展に貢献しようとする個人、家族、組織は、協力し合わなければなりません。ビジョンと目的を共有し、対立の道を捨てなければなりません。

そのためには、ユースであるいまのうちに、人と調和し、相互に作用する習慣を身につけることが大切です。私たちは友でなければなりません。互いの活動に寄り添い、互いに力になることを歓迎し、励まし合い、支え合い、互いの長所を探し、有益な助言を求め、与え合い、互いの達成を喜び合います。奉仕の道を歩むにあたり、私たちは行動し、活動を振り返り、相談し、共に学ぶ必要があります。

この数十年の間に、バハイ共同体は世界のほとんどすべての国で、特別な種類の学びの機関を設立することができました。私たちはそれをインスティテュートと呼んでいます。インスティテュートは、コミュニティに奉仕する能力を高めるためのコースを提供しています。コースを学ぶことで、私たちは共に奉仕の道を進むために必要な、精神的な洞察力と実践的な技術を得ることができます。それらのコースを進むにつれて、ますます複雑になる奉仕の活動を実践する私たちの能力が成長します。初めからずっと、私たちには、もっと経験を積んだ人たちの寄り添いがあり、いずれは私たちもより経験の浅い友人に、自然に寄り添うようになります。最初から、私たちはみな、個人と社会の変革における主役であり、自分たち自身の学びと共同体への奉仕のために、熱心に責任を引き受けています。

「主役になる」ということは、思慮深く行動する意思を持ち、忍耐強く努力を続け、どんな段階でも知識を得て、その知識を応用するということを意味します。主役とは、単に恩恵を受けるだけの受動的な存在ではなく、進歩に貢献する能動的な存在なのです。主役になるためには、創造的で規律ある自発性を発揮することを学ばなければなりません。インスティテュートのコースは、コミュニティ作りのプロセスの主役になるための能力を高めるのに役立ちます。

上述の考えについて熟考するために、グループで話し合ってみましょう。このセクションの冒頭^{ぼうとう}で述べたように、アレハンドラは単に考えを次々に示すのではなく、ベアトリスがそれらについて考え、互いに話し合う十分な機会を作るようにしています。この考えを自然に伝えることができるように、グループで段落ごとに内容を話し合みましょう。ここで、アレハンドラがベアトリスに、ルビ・イン

以下に挙げたポイントは、19日ごとのフィーストというテーマについての会話の要点となるでしょう。

- ・ バハイ共同体では、祈るため、学習のため、特別な時を祝うため、共同体の事柄や社会への奉仕について、また、活動計画について話し合うためなど、様々な目的で集まりを催します。バハオラは次のような約束をされました。

わが命とわが大業にかけて誓^{ちか}う！神の友らがどのような住まいに入ろうとも、そこから主^{しゅ}を誉^ほめ讃^{たた}え賛美する叫びが上がるならば、真の信者の魂と愛されるすべての天使は、そのまわりを旋回^{せんかい}するであろう。²³

- ・ 友らの集まりで神の言葉を聞くととき、心に喜びがもたらされ、一体性の絆は強められます。バハオラは勧めておられます。

いかなる地においても、友らは共に集い、そこで賢明に、かつ雄弁に話し、神の聖句を読むことはが似つかわしい。なぜなら、愛の火を焚き付け、それを燃え上がらせるものは神の言葉だからである。²⁴

アブドル・バハは述べておられます。

集会を開き、天の教えを暗唱^{あんしょう}し、吟唱^{ぎんしょう}せよ。そうすることによって、その国が真実の光で照らされ、その地が聖霊^{せいれい}の確証によって素晴らしい楽園になるように。なぜなら、この時代は栄光に満ち給う主の世紀であり、人間の世界の一体性のメロディは、東と西の至るところの耳に届いているからである。²⁵

- ・ 全てのバハイ集会の中で、19日毎のフィーストは特に重要です。バハイの暦^{こよみ}で一年は19ヶ月で、1ヶ月は19日からなっています。バハイは全ての地で、バハオラがお命じになったように、この集会のために月に一度、共に集います。

まことに汝らは、毎月一回フィーストを提供するよう命じられている。たとえば水だけしかなくとも。なぜなら神は、たとえば天と地の両方の手段を使ってでも、汝らの心を結びつけることを意図^{ゆえ}されたが故に。²⁶

- ・ 19日毎のフィーストは3つの部分で構成されています。第1部は祈りの部で、祈りが唱えられ聖典からの文が読まれます。第2部は行政の部で、ここで共同体の活動について協議します。第3部は社交の部です。
- ・ 19日毎のフィーストの祈りの部の重要性は、アブドル・バハの以下の言葉にかいま見ることができます。

おお、^{なんじ}汝ら「^{こらい}古来の^び美」の忠実なる^{しもべ}僕らよ！すべての周期と宗教制において、フィーストは好まれ、愛されてきました。神を愛する人々のためにご馳走でもてなすことは、賞賛すべき行為の一つと見なされてきました。そして今日、比類なきこの宗教制において、最も豊かなこの時代において、それは大いに賞賛されます。なぜならそれは、まことに神を礼拝し、賛美するために開かれる集会と見なされるからです。そこでは聖句、天来の詩、^{ぎんしょう}賛美が吟唱され、心は活気づけられ、うっとりさせられます。²⁷

- ・ フィーストの行政部分では、様々な地域のバハイ共同体の活動の報告を聞き、自分たちの地域コミュニティでのバハイの活動や、社会への貢献について話し合い、万国正義院の指針を受け取り、活動の計画の経過について振り返り、バハイの行政機構への提案を検討します。19日毎のフィーストでの協議は最も重要です。なぜなら、それによって個々のバハイは世界全体のバハイ共同体の活動に加わるからです。
- ・ フィーストの社交の部は、友情を深める時間です。音楽を演奏したり、^{はげ}励みになる経験を共有したり、子どもたちが発表したりするも良いでしょう。要するに、品位があり、楽しく、丁寧に準備された文化の表現を取り入れることで、フィーストのこの部を豊かにすることができます。
- ・ 19日毎のフィーストは信教の行政秩序の重要な特徴です。それは地域のバハイ共同体における祈り、行政(運営)、社交という三つの側面を結び合わせます。これら全ての側面は等しく強調されなければなりません。なぜなら、フィーストの成功はこれら3つの要素の適正なバランスにかかっているからです。1989年8月のメッセージで万国正義院は述べています。

バハオラの世界秩序は、人間社会のすべての^{ほうがん}単位を包含し、生活の精神的、行政的、社会的過程を統合します。そしてそれは人間がさまざまな形で行う表

現を新しい文明の建設に向かわせます。19日毎のフィーストは、これらの面すべてを社会の根底で包含しています。フィーストは村や町、市で機能し、バハイ全員が構成する機構です。それは和合を促進し、進歩を確実なものとし、喜びを生み出すことを目的とします。²⁸

- 19日毎のフィーストのような大切な行事は、十分な時間を取って準備しなくてはなりません。各自は祈りと熟考を通して、フィーストに向けて精神的準備をする必要があります。フィーストでは、祈りの部で聖句を読んでも、聞いているだけでも、行政の部で報告をしたり、指針を受け取ったり、提案をしたりしても、あるいは、社交の部でホストとして行動するにしても、輝きと喜びに溢れたもてなしを受けるにしても、どんな場面でどんな活動をしていても、心を込めて参加しなければなりません。19日毎のフィーストについての前述のメッセージで、万国正義院は述べています。

フィーストの準備において大切な事には、適切な聖句の選択、上手な読み手を事前に指定すること、^{いの}祈りの読み手と聞き手の双方の礼儀正しさが含まれます。屋内であれ、屋外であれ、フィーストが開かれる環境への配慮は、参加者のフィーストでの体験に大いに影響します。清潔、実用的で装飾を施した空間の設定など、すべてが重要な役割を果たします。時間厳守もまた、行き届いた準備の基準です。

概して、フィーストの成功は個人の準備の質と個人の参加に左右されます。親愛なる師は次のような助言をしておられます。「汝は19日毎の集会を重要視しなさい。それらの機会に、^{しゅ}主に愛される者らや慈悲深き御方の侍女らが『王国』へ顔を向け、聖句を朗唱し、^{ろうしやう}神の援助を嘆願し、喜びを持って互いへの愛を深め、純粹さと神聖さ、神に対する畏敬、情欲と自我の影響に打ち勝つ力が増すように。そうすることで彼らは、この物質の世界から身を引き離し、精神の熱に身を^{ひた}浸すであろう」²⁹

いつものように上に述べたメッセージを数回熟読し、これを自然に言えるようになるため、あなたのグループでそれらについて話し合ひましょう。以下の練習は19日ごとのフィーストの意義について洞察をさらに深める役に立つでしょう。

私たちが主を褒め称え、賛美するために集う全ての住まいにバハオラは何を保障しておられますか？ _____

1. 上の二番目の引用文で、バハオラは述べておられます。 私たちが共に集い、そこで _____ をもって _____ に話し、 _____ を読むことは、 _____。なぜなら、 _____、 _____ のは神の言葉だからです。

2. 三番目の引用文で、アブドル・バハは述べておられます。

集会を開き、神の教えを暗唱し、吟唱せよ、そうすれば、

- 私たちの住む国は _____、

- 私たちの住む地は _____ になる。

3. バハイの暦は月がいくつありますか。 _____

4. 各月は何日で構成されていますか。 _____

5. バハイたちが月に一度集まる特別な集いは何ですか。 _____

6. 19 日ごとのフィーストの三つの部とは何ですか。

7. 19 日ごとのフィーストの各部はどのような順序で実施されますか。

フィーストの祈りの部の目的は何ですか。 _____

10. フィーストの行政の部の目的は何ですか。 _____

11. フィーストの社交の部の目的は何ですか。 _____

12. フィーストの行政の部で話し合うのに適切な課題は次のうちどれですか。

- ___ 共同体の活動のための財政について
- ___ 国のサッカーチームの成績
- ___ 共同体の二人のメンバーの意見の違いをどう解決するか
- ___ 共同体のバハイ子どもクラスの発展
- ___ 共同体メンバーの一人がその週のはじめに学習した書物からの引用文の意味
- ___ 共同体のジュニアユース・プログラムの様子
- ___ 若者たちのために開かれた地元の雇用機会
- ___ 奉仕の活動が複雑になり助けが必要なジュニアユース・グループに共同体ができるサポートについて
- ___ インスティテュートが促進している教育プログラムに参加している子どもやジュニアユースたちの保護者への訪問

- 共同体の祈りに満ちた雰囲気強化
- テレビの番組表
- スタディ・サークルを喜びに満ち、規律ある雰囲気にするについて得た洞察
- 次の聖なる日のお祝い
- 共同体作りの過程から生まれた社会的活動の試み

13. フィーストの三つの部のバランスはどうしてそれほど重要なのかについてあなたのグループで話し合しましょう。

14. 以下の二つの問いについて話し合しましょう。

- a. あなたがフィーストのホスト役であるとき、どのような準備をしますか。
- b. あなたがフィーストの一参加者であるとき、どのような準備をしますか。

セクション13

信教についての会話でしばしば持ち上がる二つ目の質問は、バハイ共同体はどのようにその経済的ニーズを満たしているかということです。以下は、このような疑問に答える時に助けになるいくつかの要点です。

- バハイ共同体が経済的ニーズに^{こた}える手段はバハイ基金である。それは信教のそれぞれのレベル、つまり地方、全国、大陸、国際レベルの機構によって管理されます。バハイたちは、信教を促進する活動の費用を自分たちが負うべきであると考えています。従って、基金への献金は共同体メンバーだけから受け入れます。
- 基金への献金は自発的なものです。それは個人と信教の機構の間の事柄であり、すべて^{とくめい}匿名です。献金者の名前や献金額が公表されることはありません。共同体のいかなるメンバーにも献金の強要はありません。機構は共同体へ一般的な呼びかけをし、基金の重要性を思い起こさせ、そのニーズを示します。共同体は自分たちで献金の目標額を設定することもあります。各人の献金額が設定されることは決してなく、金銭を要求されることはありません。いくら献金するかについては、関連する原則を理解した上で、

各個人に任されています。

- ・ 私たちが建設しようとしている文明は物質的にも、精神的にも繁栄する文明です。富は特定の条件が満たされた場合にのみ受け入れられるべきです。私たちは富を誠実な労働を通して取得する必要があります。そして、それを人類の福利のために使うべきです。それによって、共同体全体が向上するべきです。一部の人が富を独占し、大多数は生活に必要な最低限のものすら手に入れられない状況を受け入れることはできません。バハオラはおっしゃっています。

すべての世界の主なる神の愛のために、職業によって生計を得、自らとその同族のためにそれを使う者こそ最も善き人々である。³⁰

…。汝ら自身と他のものの利益のために、立派なる素晴らしき果実を結ばねばならぬ。かくて技術を身に付け職業に従事することは万人の義務である。そこにこそ富の秘訣があるからである。おお理解力ある人々よ。³¹

そして、アブドル・バハはこう説明しておられます。

全人口が裕福であるなら、富は大いにほめるに足るものである。しかし、少数が法外な富を有し、一方、残りの多くは困窮し、その富から何らの利益も成果も生み出されなければ、それはその所有者にとって足枷となるだけである。³²

- ・ 不正や貧苦のない社会を建設するため、私たちは皆、寛大でなければなりません。たとえ、自分の資源が乏しくても、それでも人類の発展のために何か貢献するべきです。なぜなら、真の繁栄は与えることを通してのみ達成することができるからです。寛大は人間の魂の資質であり、それは私たちの物質的状況とは何の関係もありません。「かくされたる言葉」でバハオラは述べておられます。

施与と寛大とはわが属性である。わが美德をもって自己を飾るものは幸いである。³³

- ・ 私たちが所有する富は何であれ、その真の源泉^{げんせん}は、全てに恵み深き御方、神です。神は私たちに生存の手段を与えてくださいます。神は私たちが発展するのを可能にしておられます。基金へ献金するとき、私たちは神が私たちに与えてくださったものの一部を、神の大業にお返しするのです。ですから、バハイたちにとって、基金へ献金することは単なる寛大さの問題ではありません。それは精神的な恵みであり、個人の大きな責任でもあります。守護者は助言しています。

私たちは、もつもの全てを絶えず空^{から}にしながらか常に目に見えない源によって満たされ続ける噴水や泉のようになければならない。貧困への恐れにひるむことなく、すべての富と良きことの源なる御方の尽きることのない恩寵に頼って、仲間の利益のために絶え間なく与えること ―― これが正しい生き方の秘訣^{ひけつ}である。³⁴

ここにある考えのいくつかについては、この一連のコースのブック 11 で「物質的手段」というテーマで、より深く考える機会があります。いつものように、上の内容について一つずつ話し合い、この考えを自然に、容易に表現することができるように以下の練習をしましょう。

1. 引用文に基づいて、以下の文章の空白部分を埋めましょう。

- a. バハオラは述べておられます、私たちは _____、職業によって _____ を得、 _____ のためにそれを使うべきであると。
- b. 私たちは、自分たちと他のものの _____ のために、 _____ なる _____ 果実を _____ 結ぶべきであると。
- c. 私たちは皆、 _____ を身に付け _____ に _____ する義務がある。そこにこそ _____ の _____ があるから。
- d. アブドル・バハはこう説明しておられる。 _____ なら、富は _____ である。

セクション14

たくさん活動が行われている町や地域で行われる可能性がある会話について洞察を得るため、大学生のアレハンドラの行動を追ってみました。何週間かに渡るサンチェス家^けへの訪問を通して、いくつかのテーマについてサンチェス夫妻と分かち合いました。それらは、信教について彼らが知識を深め、教えに対する献身を強める助けになることを願ったものでした。やがて、サンチェス夫妻の孫のベアトリスが登場し、また違った種類の会話、つまり自分たちの共同体へどのように奉仕するかについて学びたがっている二人のユースの間の会話を見ることができました。アレハンドラの経験に沿って、それぞれのセクションの練習問題を解く中で見えてきたことは、対話を継続させるためには、関連するテーマについての知識だけでなく、精神的資質や態度、スキルが求められるということです。

このセクションと次のセクションで、異なったテーマを探求します。それらはインスティテュートが促進している教育のプログラムに参加している小中学生の家庭を訪問する際に話し合われることが多いテーマです。すでに示しているように、子どもクラスを教え、アニメーターとしてジュニアユース・グループを導くことは、この後に続くブック3や5で取り上げている奉仕の活動です。この二つのプログラムは、ご自身が幼少の頃に参加され、ご存じの方もいらっしゃるかもしれません。

まず、ジュニアユースの家族との間で進行する会話の基礎となる内容を見てみましょう。前のセクションで様子を見た時から、いくらか時間が経ち、今ではベアトリスはブック2を学んでいます。アレハンドラは、数人のジュニアユースが参加するグループを立ち上げようとしています。そのジュニアユースたちの家族を訪問するとき、ブック2を勉強中のベアトリスも一緒に行かないかと誘いました。ベアトリスは喜んで、その誘いに応じました。

アレハンドラは自分が思い描いていることをベアトリスに説明しました。「私たちはまず、保護者たちに、彼らの子どもたちが参加したいと言っているプログラムについて紹介します。それは、この地域で私たちが進めたいコミュニティ作りの活動の一つであると話しましょう。それから、プログラムの中心的な概念と考えのいくつかを分かち合しましょう。これは最初の訪問です。訪問を重ね、会話が進むにつれて、その家族が、様々な方法でグループを積極的に助けるようになり、コミュニティのジュニアユースたちの精神性を磨くことを促す役割を担うようになることを願っています」

アレハンドラとベアトリスは、訪問する家族に紹介しようとしているいくつかのポイントを話し合っています。二人は、自分たちが重要と思う考えを全て書き出しておくことにしました。最初の訪問時にはほんの少しか話せず、残りは継続する訪問の中で話すことになるかと分かっています。以下は、

ジュニアユースの可能性について二人が挙げた要点です。

- ・ 人の一生で、12歳から15歳の三年間は、幼児期から成人期への発達の段階であり、重要な時期です。
- ・ この年齢層の若い人たちのことを、「ジュニアユース」と呼びます。彼らは、もう子どもでもありませんが、完全にユース(青年)というわけでもありません。
- ・ ジュニアユースのイメージとして、直情的、反抗的、自己中心的、問題行動を起こし易いというような誤ったイメージが広く浸透しています。しかし、私たちは彼らを別の観点から見ています。人生のこの短い期間、私たちは皆、身体面、感情面、精神面に急激な変化を経験することは確かです。また、その結果、反抗心を示すかもしれません。しかし実際は、大いなる可能性と期待の時期でもあります。
- ・ 私たち自身、つい先頃までジュニアユースだったし、それらの変化にどのように影響されたか覚えています。時には勇敢で、時には臆病おくびょうでした。とても社交的な時があれば、全く内気な時もありました。しばしば、ほっといて欲しいと言ひ、一方では注目されたいと願っていました。自分の得意なことや、自分が持っている才能や能力を知りたかったし、他の人たちが自分をどう見ているか、自分の考えをどう思うかがとても気になりました。
- ・ 認識すべき重要な点は、この種の振る舞いはほんの一時的なものであるということです。人間の一生の内のこの三年間で、思考のある一定の力が急激に発展します。私たちは存在についての根源的な疑問について探求し始めます。自分たちの周囲に起こっていることを分析し、教えられてきたことの多くに疑問を抱きます。大人たちのいうことを、特に大人たちの言葉と行いが一致しないのを見る時には、以前のように自動的に受け入れることはなくなります。
- ・ 彼らに芽生えつつある力が活かされるよう援助するには、彼らを子ども扱いしないことが不可欠です。この時期について、アブドル・バハは次のように述べておられます。

しばらくすると人は青春期に入り、以前の状態やニーズは、その段階の進歩に適切な新しいものにとって変えられる。観察能力は広がり、また深まる。知的能力は訓練され、覚醒かくせいされる。子どもの頃の限界や環境は、最早、

その若者のエネルギーや達成を制限しない。³⁵

- ・ バハイ信教の統治機関である万国正義院は、ジュニアユースと活動する時に私たちが取り入れているアプローチについてこう述べています。

世界的な傾向は、この年齢層に対して、不確定で、激動的な身体的・感情的変化の苦悩の中で迷っている、無反応、自己中心的であるなどというイメージをもっていますが、バハイ共同体はそれとは異なり、使用する言葉とアプローチにおいて明らかに逆方向に動いています。つまり、ジュニアユースの中に利他主義、敏感な正義感、万物について学ぶ熱意、よりよい世界を建設するために貢献したいという願望といったものを見出します。³⁶

次にアレハンドラとベアトリスは、このジュニアユースの精神的な力を引き出すプログラムの特徴に注目しました。

- ・ 12歳から15歳の年代は、自分たちの考えを分かち合ったり、プロジェクトに取り組んだり、スポーツを楽しんだりすることができる仲間属に属したがりです。こうした理由で、このプログラムは「ジュニアユース・グループ」という概念のもとに構築されます。各グループは、「アニメーター」によって導かれます。アニメーターは通常、年上のユースで、参加しているジュニアユースたちの真の友として彼らの能力を伸ばすことを助けます。
- ・ グループは定期的集まります。そこでジュニアユースたちは、非難や嘲笑を恐れることなく概念を探求し、考えを表現することを学びます。彼らは互いの意見を聞き、発言し、熟考し、分析し、決定を下し、その決定を行動に移すよう励まされます。
- ・ 私たちは極めて多くの否定的な力がジュニアユースの考え方や行動に影響を与える時代に生きています。アニメーター達は、彼らが社会の道徳的衰退から身を守るためだけでなく、世の改善のために働けるようになるために、彼らがこれらの力に抵抗するのを助けます。
- ・ このプログラムは、人の魂に内在する力を育てようとします。その力は青年期の初期に一層はっきりと現れ始めます。思考力と表現力は特に重要です。若い人たちは、世界

についての深遠な考えと、世界がどうあってほしいかを明快に表現すること、この両方に必要な言語力を発達させる必要があります。

- ジュニアユースは有意義な人生にとって基本となる概念を熟考したいと願っています。例えば幸せ、希望、卓越性^{たくえつせい}についてなどです。残念なことに、人々はこれらの概念について表面的に話す傾向にあります。それらを深く理解し、それらが日常生活でどう表われるか気づくようになることは、若い心が健全な道徳的^{わくぐ}枠組みを築き、社会の否定的な勢力に抵抗するのを助けることができます。
- 概念の理解は知的発達にとって不可欠です。ジュニアユースは、学校で様々な科目の根底にある概念を理解するのに十分な援助がないままに、多くの情報を詰め込まれているため、時々難しさを感じます。ジュニアユースのプログラムは、道徳的、数学的、科学的な概念について深く考えるよう彼らを動機付け、その結果、彼らの学校での学びが向上します。
- ジュニアユースは、物事を本質的に理解したいのです。周囲で起きていることの理由をきちんと知りたいと思っています。そのためには、物事を、物理的な目だけでなく、内なる目で見ることにも必要です。このプログラムの重要な目的は、精神的に物事を見る力、つまり、神の原則に従って物事を識別する能力や、直面する状況の中に神の精神的原則を見出す能力を高めることです。
- プログラムは一連のテキストによって、道徳性、精神的に物事を見る力、表現力を発達させるという目的を達成します。テキストは世界の様々な場所の若者たちの人生についての簡単なストーリーで構成されています。ジュニアユースたちは、これらのテキストと一緒に学習し、その内容について話し合い、求められている練習問題を完成させることの他に、スポーツをしたり、美術・工芸を学んだりします。
- グループはアニメーターに助けられて、このプログラムの主要な構成要素である様々な奉仕のプロジェクトを計画し、実践します。ジュニアユースは奉仕のプロジェクトを通して、地域コミュニティとそのニーズについて考え、話し合い、自分たちの間で、また地域コミュニティの他の人々と協力することを学びます。

- ・ このテキストで取り上げられているテーマは様々で、それぞれがジュニアユースの精神的な力を引き出すために不可欠なテーマに焦点を当てています。例えば、最初のテキストでは「^{かくしょう}確証」というテーマを扱います。高貴な目標を達成するために私たちが努力するとき、神は確証を与えてくださるという概念です。別のテキストは、「希望」を扱っています。どんなに困難なときでも希望を持って将来を見すえなければなりません。また、別のテキストでは「優秀さ」という概念を分析します。「喜び」はまた別のテーマで、別のテキストでは「言葉の力」について熟考します。数学的な概念を扱うテキストでは、物事を秩序だって考える習慣を探求します。科学の分野では、身体、心、魂の健康に留意することに焦点を当てたテキストがあります。これらの他に、ジュニアユースは三年間で10以上のテキストを学習します。

アレハンドラとベアトリスは、ジュニアユースの保護者たちがテキストに目を通したいかもしれないので、何冊か持って行くことにしました。あなたがテキストの内容をあまり知らなかったら、時間を取って、テキストにあるストーリーをできるだけたくさん読んでみましょう。そうすれば、コミュニティで交わされる多様な会話についていきやすいかもしれません。同時に、あなたのグループに参加する他の人たちと、上に提示された考えについて十分話し合うよう勧めます。これらのテーマは、ブック5で深く探求します。もしあなたがブック5を学習し、ジュニアユース・グループのアニメーターとして活動することにするとしたら、定期的に自分のジュニアユース・グループのメンバーの保護者を訪問し、ここに述べられたような多くの考えを彼らと学び合ってください。ここまで学習したあなたも、ベアトリスのようにジュニアユースの保護者訪問に同行してみませんか。

セクション15

次の日、アレハンドラとベアトリスは、近所にできつつある新しいグループに加わる予定の3人のジュニアユースの家族を訪問しました。ベアトリスは、精神的な力を引き出すプログラムについて話し合う保護者たちの熱意を見て、うれしく思いました。これらの訪問を通して、ベアトリスはジュニアユース・プログラムでアレハンドラを手伝って、アニメーターとして奉仕することを学び、できれば、年内に自分も新しいグループを始めたいと考えるようになりました。もちろん、それまでにベアトリスは、インスティテュートのコースをいくつか終えなければならないということを分かっています。そして、それらの学習をこれまでと同じように着々と進めようと決意しています。

アレハンドラの継続的な援助と励ましのもとに、ベアトリスは奉仕の道を進みます。ここで、ブック3の学習を終わろうとしているベアトリスを見てみましょう。ベアトリスのスタディ・サークルのチュータ

ーは、子どもクラスの先生をしているマリベルに、「新しく始まるグレード1の子どもクラスの保護者を訪問する時に、ベアトリスや他の参加者たちを一人ずつ同行させてください」と頼みました。ベアトリスは、ブック3の学習でたくさんのことを学んだと感じています。そして、アレハンドラが何度か言っていたように、テキストから得た洞察は、アニメーターとして奉仕するための能力を向上させるだろうと確信しています。

次に二人が会った時、エマのお母さんであるマルチネスさんを訪問しようと、マリベルがベアトリスに伝えました。「エマは愛らしい子で、学ぶのが大好きなんです。私は、一度、エマのご両親を訪問して、バハイ子どもクラスの特色を説明しました。ご両親は喜んで、エマを参加させることにしました。お母さんがクラスについてもっと知りたがっているので、もう一度訪ねて、クラスで使うテキストの基礎となっている教育の考え方について少しお話する約束をしました。私は自分用にメモを書いたので、よかったら、それを一緒に読んで、話してみるのはどうでしょう」マリベルのしたこの提案に、ベアトリスは同意しました。その内容は以下の通りです。

- ・ 始めに、エマが子どもクラスに参加してくれて本当にうれしいとマルチネスさんに伝え、エマが持っている美德について話します。
- ・ マルチネスさんとの話し合いのとき、まず、バハオラの書からの以下の引用文と一緒に読むことが最善でしょう。

人間を、計り知れないほど高価な宝石に富む鉱山と見なせ。教育のみがその宝を放出させ、人類にその利益を与えることができる。³⁷

- ・ 子どもクラスの先生として、この引用文が自分にどれほど影響を与えたかについて分かちあおうと思います。クラスで子どもたちを見て、彼らは計り知れない価値のある宝石でいっぱいのだと思うたびに、私の心は喜びにあふれます。子供たち一人一人が聖なる資質を顕わす可能性を持っています。発掘され磨かれるのを待っている才能があります。社会に役立つ一員として成長し、世の改善に貢献することができます。
- ・ 教育によって、一人一人の子どもから引き出される宝石の例をいくつか挙げてみます。例えば知性の力には、自然の法則を発見したり、素晴らしい芸術品を造ったり、崇高な思考を表現したりするなどの力があります。子どもたちは適切な教育を受けるとき、それらの力の全てを磨き始めることができると説明します。そのためには、子どもたちは早い

時期にいくつかの資質を身につけなくてはなりません。例えば、物事に注意を払うこと、必要に応じて努力すること、していることに集中することなどを学ばなければなりません。子どもたちは、人の幸せに関心を持ち、地域コミュニティとのつながりを大切にしたいと願う人に成長するべきです。だからこそ、幼少期の人格形成に気を配ることが大切です。

- ・ この時点で、次のことをマルチネスさんに尋ねてみるといいでしょう。マルチネスさんは、娘のエマにどのような人になってほしいと願っているのでしょうか。エマが身につけるべき重要な資質にはどのようなものがあるのでしょうか。
- ・ マルチネスさんが述べる資質の中には、次のテーマである精神的資質に該当するものも含まれているでしょう。人間の存在の基本となる、私たちが持つべき資質があります。それらの資質は人間の魂に属するものです。私たちは心という鏡を磨いて神の属性を反映させることで、それらの資質を伸ばすことができます。私たちはそれらを精神的資質と呼び、子どもクラスのグレード1で教えるレッスンは主にこの精神的資質に焦点を当てています。
- ・ ブック3のグレード1のレッスンでとりあげている精神的資質をいくつかを挙げ、関連する引用文をマルチネスさんと共有しようと思います。エマが学んでくる引用文やお祈りを家でも言うよう、マルチネスさんにはエマを励ましてほしいとお願いします。

- 愛

おお友よ！^{なんじ} 汝の心の^{はなぞの}花園に愛のバラのみを植えよ。…。³⁸

- 正義

正義の道を歩め。まことに、これこそがまっすぐな道である。³⁹

- 誠実

誠実であることは、すべての美德の基礎である。⁴⁰

- 喜び

おお人の子よ！汝^{なんじ}われに会い、わが美を反映するに^{ふさわ}相応しくなれるよう
汝の心に喜びを持て。⁴¹

マリベルとベアトリスは、1度の訪問には上記の内容で充分だと判断しました。みなさんは、まもなくブック3の学習に進み、ルビ・インスティテュートの6年間にわたる子どものための精神的な力を磨くプログラムをかたち作る、いくつかの原則について熟考する機会があるでしょう。もしそれ以前に、子どもクラスの教師と共に保護者たちを訪問する機会があれば、上述のいくつかのポイントが助けになるでしょう。ですから今、あなたのグループでこれらについて一つ一つ話し合しましょう。

セクション16

以前、私たちは「仲間の結びつきや人々の結束が強いほど、人間の活動のすべての面において建設性や達成の力はより大きくなるであろう」というアブドル・バハの言葉を読みました。万国正義院は、私たちが人を訪問したり、自分たちの家へ招いたりする時に「共同体の意識を育てる精神的な親族関係の絆を築いているのである」と、述べておられます。この習慣が、成長している私たちの共同体の文化に与える効果を過小評価してはなりません。

これまでのセクションで、私たちは、互いの家庭を訪問する時になされるいくつかの異なった種類の会話について検証してきました。私たちはみな、奉仕の道を歩むとき、自分たちの村や町、近隣地区で、個人あるいは集団生活にバハオラの教えを適用することについて広がっている会話に参加するでしょう。時には、それは、多くの人に第3章に取り上げられている教えについての知識を深めるよう企画された一連の訪問に発展するでしょう。また、インスティテュートが提供する子どもやジュニアユース向けの教育プログラム、それらの目的と内容が話し合いの主題となることも多いでしょう。

より多くの隣人や友だちを共同体作りのプロセスに誘うようになるでしょう。未来に目を向け、私たちの前に伸びる奉仕の道を見ると、この章の内容を丁寧に学習し、各テーマについて会話する経験を積み、そしてもちろん、バハオラの教えについての自分の知識を深め続けるあらゆる努力をする必要があると分かります。こうして、神の言葉を他の人々と分かち合うという、終わりのない喜びは私たちのものとなります。

参考文献

1. 「かくされたる言葉」 アラビア編 4番
2. バハオラ「祈りの書」短い日々の祈り
3. 落穂集 4番
4. 落穂集 5番
5. アブドル・バハ「祈りの書」許しを乞う祈り
6. アブドル・バハ「祈りの書」人類のための祈り
7. アブドル・バハ「祈りの書」人類のための祈り
8. From a talk given on 16 August 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace: Talks Delivered by 'Abdu'l-Bahá during His Visit to the United States and Canada in 1912* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2012),
9. アブドル・バハ「祈りの書」導き
10. 落穂集 45番
11. 'Abdu'l-Bahá, cited by Shoghi Effendi, *The World Order of Bahá'u'lláh: Selected Letters*
12. 落穂集 5番
13. From a talk given by 'Abdu'l-Bahá on 5 May 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace*
14. パリ講話集
15. 落穂集 146番
16. From a talk given by 'Abdu'l-Bahá on 5 May 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace*
17. 「かくされたる言葉」 ペルシャ 44番
18. 「かくされたる言葉」 ペルシャ 66番
19. From a Tablet of 'Abdu'l-Bahá. (authorized translation)
20. From a talk given by 'Abdu'l-Bahá on 25 September 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace*
21. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2010, 2015. printing), no. 43.1
22. Ibid., no. 207.3
23. Bahá'u'lláh, in *Bahá'í Meetings: Extracts from the Writings of Bahá'u'lláh, 'Abdu'l-Bahá, and Shoghi Effendi*, compiled by the Research Department of the Universal House of Justice
24. 同上
25. *Tablets of Abdul-Baha Abbas* (New York: Bahá'í Publishing Committee, 1916, 1930 printing), vol. 3, p. 631. (authorized translation)

26. バハオラ 「アグダスの書」 par.57
27. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 48.1
28. From a letter dated 27 August 1989, published in *Messages from the Universal House of Justice, 1986-2001: The Fourth Epoch of the Formative Age*
29. 同上, no. 69.9-10
30. 「かくされたる言葉」 ペルシャ 82番
31. 「かくされたる言葉」 ペルシャ 80番
32. 'Abdu'l-Bahá, *The Secret of Divine Civilization*
33. 「かくされたる言葉」 ペルシャ 49番
34. Shoghi Effendi, cited in *Bahá'í News*, no. 13 (September 1926)
35. From a talk given by 'Abdu'l-Bahá on 17 November 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace*
36. From a message dated 21 April 2010, published in *Framework for Action: Selected Messages of the Universal House of Justice and Supplementary Material, 2006-2016*
37. 落穂集 122番
38. 「かくされたる言葉」 ペルシャ 3番
39. 落穂集118番
40. ショーギ・エフェンディ「神の正義の出現」
41. 「かくされたる言葉」 アラビア 36番